

＜自主研究＞

平成13年芸予地震に関する住民アンケート調査

調査報告書

平成13年4月

 株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

～目 次～

I	調査概要	1
II	調査結果のまとめ	3
III	おもな調査結果	5
	＜対象者の属性＞	5
1	地震発生時の状態	8
2	地震で揺れている間の行動	9
3	その後の行動	10
4	被害状況	11
5	地震で困ったこと	16
6	地震直後の情報ニーズ	17
7	情報を知るために役立った媒体	18
8	過去の安芸灘地域の認知状況	20
9	過去の地震の広報の必要性	21
10	過去の地震の広報による行動変化	21
11	広島県の地震被害想定調査の認知状況	22
12	地震の長期予測による地震対策行動変化	23
13	地震の中期予測による地震対策行動変化	23
14	大地震の発生不安意識	24
15	地震への備え意識＜地震前・地震後＞	25
16	地震への具体的備え＜地震前・地震をきっかけに＞	26
17	地震が起きた場合の地域の安全意識	28
18	地震が起きた場合に危険に思うこと	29
19	ボランティアへの参加意向	30
20	行政の対応スピード評価	31
21	地域防災に対して行政に望むこと	32
IV	質問と回答	33
V	自由回答	51

I 調査概要

1. 調査目的

3月24日に発生した「平成13年芸予地震」に関し、住民の発生直後の意識や行動を把握するとともに、「兵庫県南部地震」発生直後の都市住民（東京、静岡、大阪）の意識と比較することにより、今後の都市防災のあり方や住民の防災対策に役立てる基礎的な資料を提供する目的で実施。

2. 調査設計

(1) 調査地域

広島県内で震度5以上を記録した地域。（福山市を除く）

(2) 調査対象者

調査地域に居住する満20歳以上の男女個人で、地震発生時に広島県内にいた人

(3) 調査対象数

300サンプル

(4) 地点抽出と対象者抽出方法

地点抽出 調査地域より人口比に応じて30地点を無作為抽出

対象者抽出 エリアサンプリングによる無作為抽出
(性・年代を考慮して10サンプル/地点)

(5) 調査方法

調査員による訪問面接聴取法（一部留置法併用）

(6) 調査期間

平成13年3月30日（金）～4月2日（月）

対象地点（各10サンプル）

広島市中区白島中町	広島市安佐南区緑井	竹原市 本町
吉島西	沼田町伴	三原市 城町
東区戸坂山崎町	安佐北区倉掛	尾道市 西御所町
馬木	亀山南	廿日市市 阿品
南区丹那町	安芸区中野	熊野町 貴船
宇品御幸	佐伯区藤垂園	海田町 西浜
西区井口鈴ヶ台	薬師が丘	蒲刈町 宮盛
南観音	呉市 宮原	宮島町
三篠北町	広島市 古新開	河内町 中河内
安佐南区上安	仁方本町	川尻町 久筋

＊「兵庫県南部地震」発生直後の調査概要

～「地震防災に関する都市住民アンケート調査」（平成7年 弊社実施）

- ・調査地域 東京（23区内）－関東大震災を経験した巨大都市
静岡（静岡市・清水市）－東海地震に対する防災対策先行都市
大阪（大阪市内）－兵庫県南部地震を経験した都市
- ・調査対象者 今回調査と同様（但し大阪市内は、兵庫県南部地震経験者に限定）
- ・調査対象者数 今回調査と同様（各都市300サンプル）
- ・抽出方法 今回調査と同様
- ・調査方法 今回調査と同様
- ・調査期間 平成7年1月27日（金）～2月2日（木）
（兵庫県南部地震は、1月17日発生）

3. 調査内容

＊ ◆印は、「地震防災に関する都市住民アンケート調査」（平成7年）と同一質問

◇印は、同調査の、大阪地域と同一質問

◇①地震発生時の状態	問 1
◇②地震で揺れている間の行動	問 2
◇③その後の行動	問 3
◇④被害状況	問 4, 5, 6
◇⑤地震で困ったこと	問 7
⑥地震直後の情報ニーズ	問 8
⑦情報獲得手段と満足度	問 9
⑧過去の安芸灘地域地震の認知状況	問 10, 11
⑨過去の地震の広報必要性	問 12
⑩過去の地震広報による行動変化	問 13
⑪広島県の地震被害想定調査の認知状況	問 14
⑫地震の長期予測による地震対策行動変化	問 15
⑬地震の中期予測による地震対策行動変化	問 16
◆⑭大地震の発生不安意識	問 17
◆⑮地震への備え意識（地震前・地震後）	問 18
◆⑯地震への具体的備え（地震前・地震をきっかけに）	問 19, 20
◆⑰地震が起きた場合の地域の安全意識（地震前・地震後）	問 21
◆⑱地震が起きた場合に地域で危険に思うこと	問 22
◆⑲ボランティアへの参加意向	問 23
⑳行政の対応スピード評価	問 24
◆㉑地域防災に対して行政に望むこと	問 25

4. 集計にあたって

- (1) 集計は、回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入している。このため、回答率の合計が 100%ちょうどにならない場合がある。また、複数回答の設問では、回答率の合計が 100%を超えることがある。
- (2) グラフ中の“N”は回答者数を表す。
- (3) 比較データとして平成7年に実施した「地震防災に関する都市住民アンケート調査」の結果を用いている。

Ⅱ 調査結果のまとめ

松山大学人文学部 中村 功

1. 被害

3月24日午後3時28分安芸灘を震源とする「芸予地震」が発生し、広島県では震度6弱を記録した。当時私は震度5強を観測した松山市にいたが、私自身これまで体験したことのない激しい揺れであった。

この地震により中国・四国地方で、死者2名、負傷者200名以上の人的被害が報告されている。今回の調査は広島県の比較的被害のあった地域で行われたが、調査結果を見ると、自分や他人のけがの手当をした人は1人もおらず、調査世帯では人的被害はほとんどなかったといえる。

また、家屋の一部にひびの入った人はいたが、家屋の全半壊は1件もない。また、ライフラインも、断水が16%、停電・ガスの停止が各6%と被害を受けた家庭はあまり多くなかった。物的被害は、室内の小物が落下した程度で、それほど深刻なものではなかったようだ。

2. 情報

地震後、高かった情報ニーズは、余震の可能性と、地震情報（震源・規模）についてであった。これは他の地震と同様の傾向である。これら情報の入手先は主にNHKで、これも他の災害時と同様のパターンであった。もう一つ住民が知りたい情報は、知り合いの安否である。これには主に電話・携帯電話が使われるが、住民がもっとも深刻に感じた被害は、電話・携帯電話が使えなかったことであった。実際、今回も一定期間、電話、携帯電話の輻輳が起きていた。固定電話の場合、たとえば地震直後、広島市内への通話は通常の5倍となり85～90%の通話をカットする規制がかけられた。規制の解除は午後10時20分になってからという。またNTTドコモ中国によると、広島市内で携帯電話（音声）が殺到したため、午後10時頃まで75%規制をかけたが、それでも通常の7、8倍の通話があったという。調査では、電話が使えなかった人が68.3%、携帯電話が使えなかった人が54.3パーセントおり、最も困ったこととして「電話が使えなかった」をあげた人が48.3%、「携帯電話」が38.3%いた。阪神大震災の時には利用者が少なかったため、携帯電話が比較的通じやすかったが、現在では携帯電話も込み合って使えなくなることが改めて思い知らされた。

対策としては、第一に人命に関わるような通話は、災害時有線電話である公衆電話からかけることがある。愛媛で死者が出たケースでは、救急車を呼ぼうと何度も電話をかけ直したという。かかる事態をさけるために、今後こうした知識をより広めていくことが重要であろう。

第二に安否確認のためにはN T Tが実施している災害用伝言ダイヤルがある。今回は録音が約3万4000件、再生が約5万3000件で、利用が活発とはいえなかった。

またインターネットだが、パソコン所有者の中で、約2割が「インターネットが使えないことがあった」といっている。これは、電話の輻輳でインターネットにアクセスできなかったことが一番の原因と思われるが、I S D N回線の場合でも、プロバイダー側の輻輳や停電などで使えなくなることが少なくない。災害時の情報伝達にインターネットを活用するのはいいが、安易に依存することは危険であるようだ。

3. 住民の認識と行動

地震時の住民のとした行動としては、「じっと様子を見る」人がもっとも多かった。これは地震の規模が中程度であったこと（震度7では、動けない人や何かにしがみつ়く人が多い）と、そもそも地震時にはなにをすべきかわからない人が多かったせいではないだろうか。というのも、地震時はまず身の安全を図り、むやみに外に飛び出ないことが基本だが、約15%の人が外に飛び出している。そして実際、愛媛では外に飛び出して落下物に当たり1人の死者が出た。今回の震源である安芸灘では1905年と1949年にも地震があり、観測強化地域に指定されていた。しかし、過去の地震について正確に知っている人は少数で、約6割の人は全く知らなかった。

また、「地震に対して危険を感じている人」もととても少なかった。そのため、地震以前に防災対策を講じていた人も少なかった。たとえば「非常持ち出し品を準備していた」人は17%、「避難場所の確認や家具の固定などを実施していた」人は1割以下であった。そして9割以上の人が自分の地震前の対策は不十分だったと考えている。

II おもな調査結果

<対象者の属性>

F 1 性別

	回答数	比率 (%)
男性	150	50.0
女性	150	50.0
合 計	300	100.0

F 2 年齢

	回答数	比率 (%)
20～24 歳	21	7.0
25～29 歳	34	11.3
30～34 歳	33	11.0
35～39 歳	29	9.7
40～44 歳	28	9.3
45～49 歳	29	9.7
50～54 歳	38	12.7
55～59 歳	24	8.0
60～64 歳	25	8.3
65～69 歳	24	8.0
70 歳以上	15	5.0
合 計	300	100.0

F 3 職業

	回答数	比率 (%)
自営業主	40	13.3
家族従業（家事手伝い）	21	7.0
勤め（全日）	114	38.0
勤め（パートタイム）	26	8.7
無職の主婦	57	19.0
学生	7	2.3
無職	35	11.7
合 計	300	100.0

F 3. 1 仕事内容

	回答数	比率 (%)
農林漁業	5	2.5
商工・サービス	38	18.9
自由業	5	2.5
経営・管理職	8	4.0
専門・技術職	44	21.9
事務職	28	13.9
労務・技能職	23	11.4
販売・サービス職	30	14.9
無回答	20	10.0
合 計	201	100.0

F 4 家族形態

	回答数	比率 (%)
ひとり暮らし	13	4.3
それ以外	282	94.0
無回答	5	1.7
合 計	300	100.0

F 5 同居家族

	回答数	比率 (%)
乳児（0歳）	9	3.0
1～3歳	42	14.0
4歳以上で小学校入学前	37	12.3
小学1～3年生	37	12.3
小学4～6年生	24	8.0
中学生	24	8.0
65歳以上の方	82	27.3
病弱で寝たきりの方	4	1.3
いずれもない	113	37.7
無回答	9	3.0
合 計	300	100.0

F 6 住居形態

	回答数	比率 (%)
持家（一戸建）	223	74.3
分譲マンション	5	1.7
民間の借家（一戸建）	20	6.7
民間のアパート・借家	36	12.0
公団・公社・公営の賃貸住宅・アパート	7	2.3
社宅・公務員住宅など給与住宅	8	2.7
住み込み・寮・寄宿舍など	1	0.3
合 計	300	100.0

F 7 住居構造

	回答数	比率 (%)
木造	199	66.3
RC（鉄筋コンクリート）造	35	11.7
SRC（鉄骨鉄筋コンクリート）造	24	8.0
その他の非木造	14	4.7
非木造であるが構造はわからない	12	4.0
わからない	15	5.0
無回答	1	0.3
合 計	300	100.0

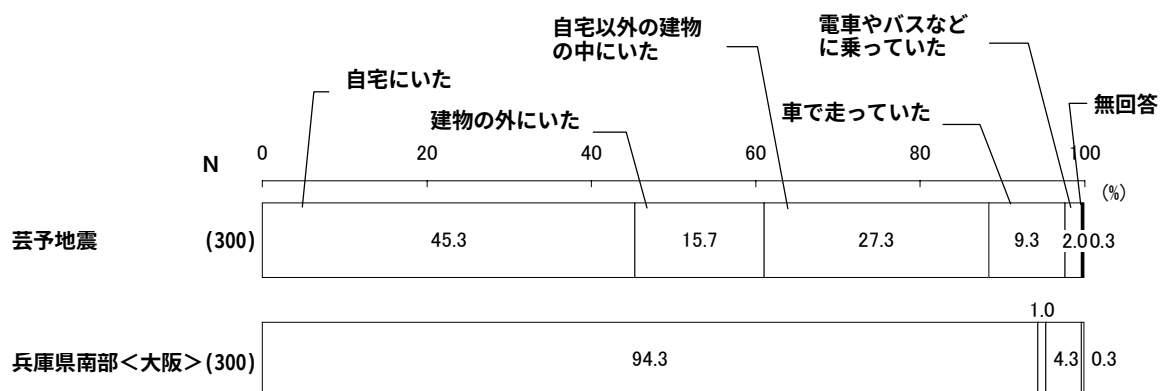
F 8 住居耐震性

	回答数	比率 (%)
新耐震基準の建物	28	9.3
旧耐震基準で、耐震診断を受けている	7	2.3
旧耐震基準で、耐震診断を受けていない	39	13.0
わからない	225	75.0
無回答	1	0.3
合 計	300	100.0

◆7割以上が屋内(自宅 45%、自宅以外 27%)で地震を体験

早朝に発生した兵庫県南部地震に対し、今回の芸予地震は休日(土曜)の昼に発生したため、「自宅以外の建物」や、「建物の外」など、自宅以外にいた方が半数以上を占めた。「自宅」(45.3%)、「自宅以外の建物」(27.3%)と7割以上は屋内で地震を体験。

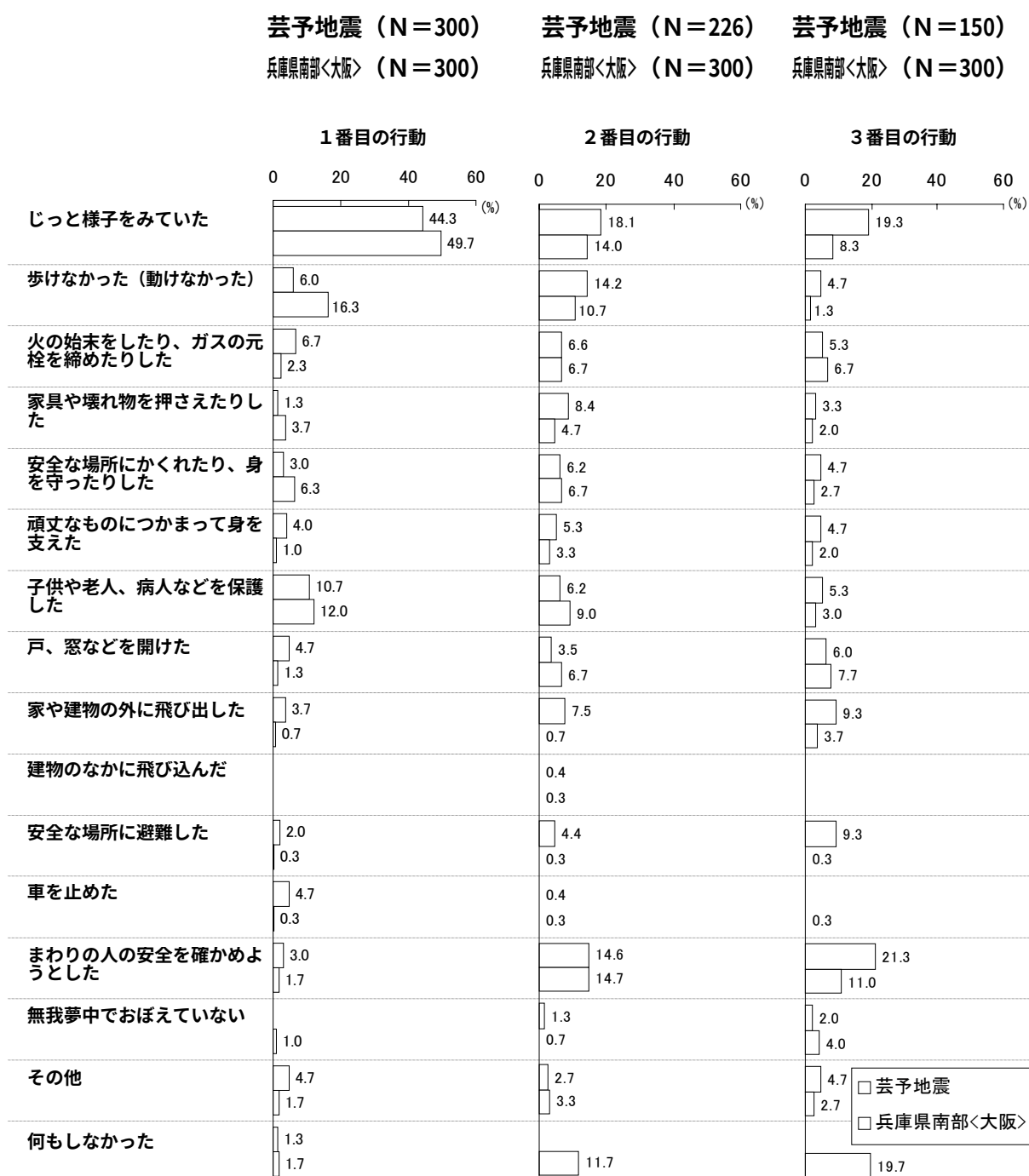
問1 3月24日15時28分に「芸予地震」が発生しましたが、今回の「芸予地震」が起きたときあなたはどこにいましたか。



◆最初の行動は夜型地震でも昼型地震でも「じっとしている」が半数

芸予地震も兵庫県南部地震も、発生時間等は異なるが、最初の行動は「じっと様子をみていた」が半数近くを占める。

問2 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あなたが行った行動を、最初にしたものから順に3つまで教えてください。

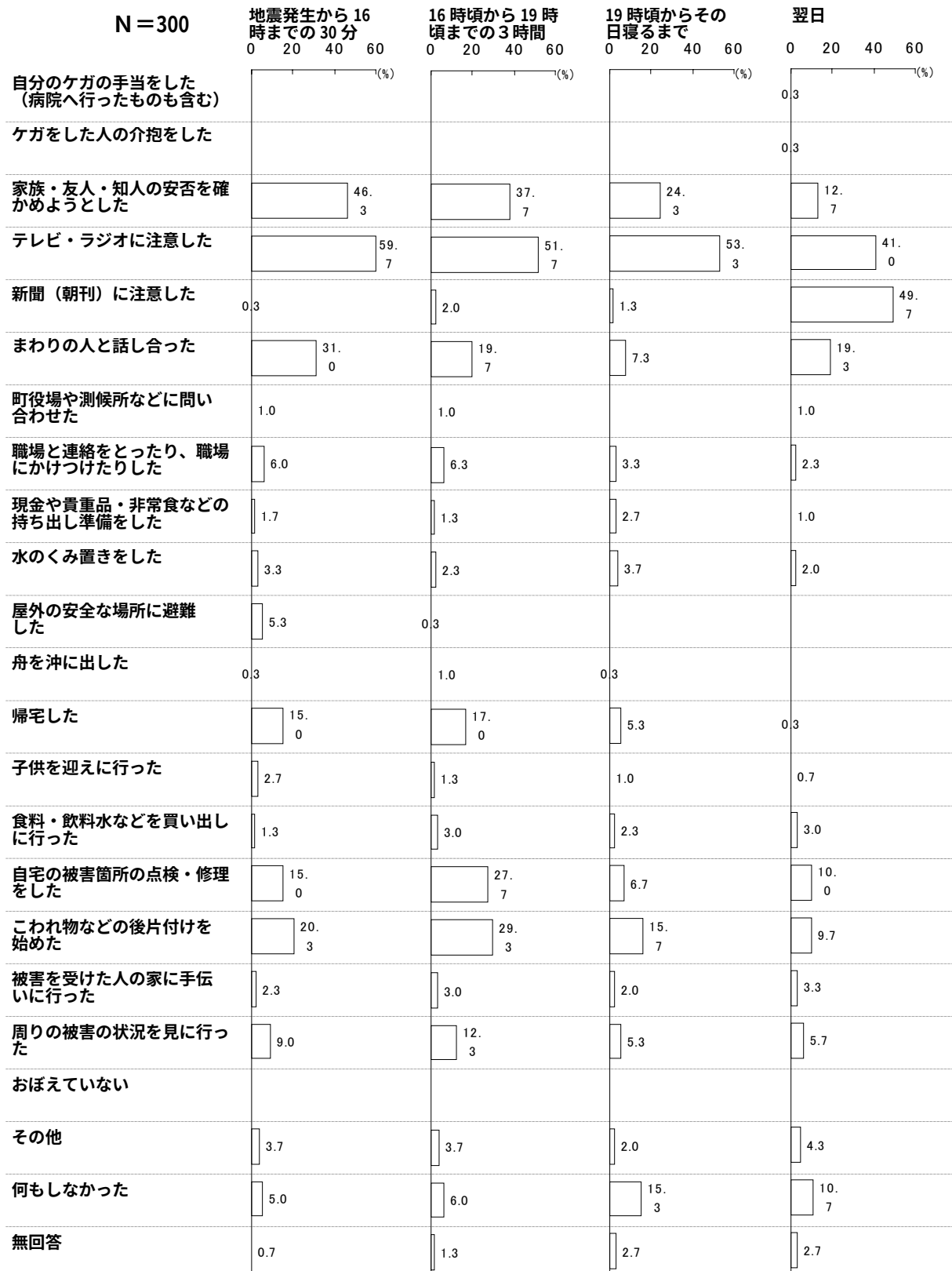


注) 芸予地震調査については、「2 番目の行動」「3 番目の行動」が無回答の場合、集計から除外した。

◆テレビ・ラジオによる情報収集は翌日まで続く

地震直後から一貫して「テレビ・ラジオに注意」。翌日は「新聞にも注意」。

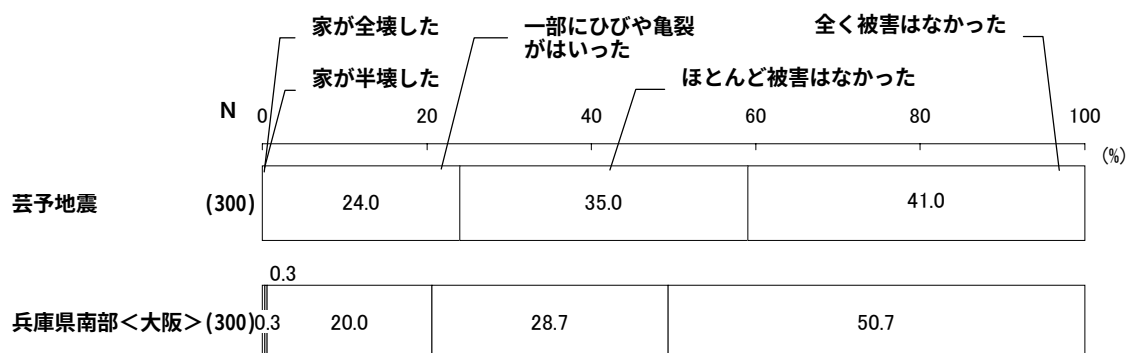
問3 地震の揺れがおさまった後、あなたは何をしましたか。時間帯別にあてはまるものを全てお答えください。



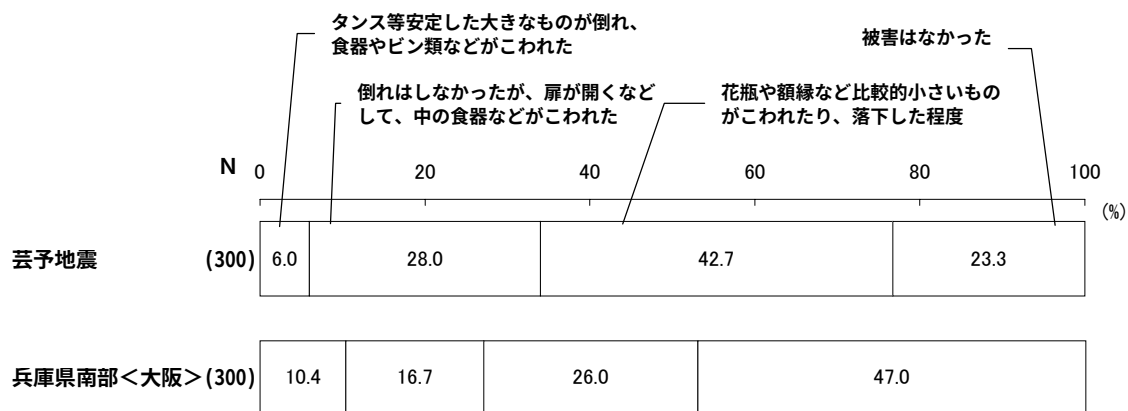
◆6割近くが家屋(建物)に、8割近くが家具などに何らかの被害

家屋の被害はほとんど無いものの、小物などの軽微な被害状況だけをみると、兵庫県南部地震の際の大阪市内を上回る状況

問4 お宅では家屋(建物)に被害がありましたか。



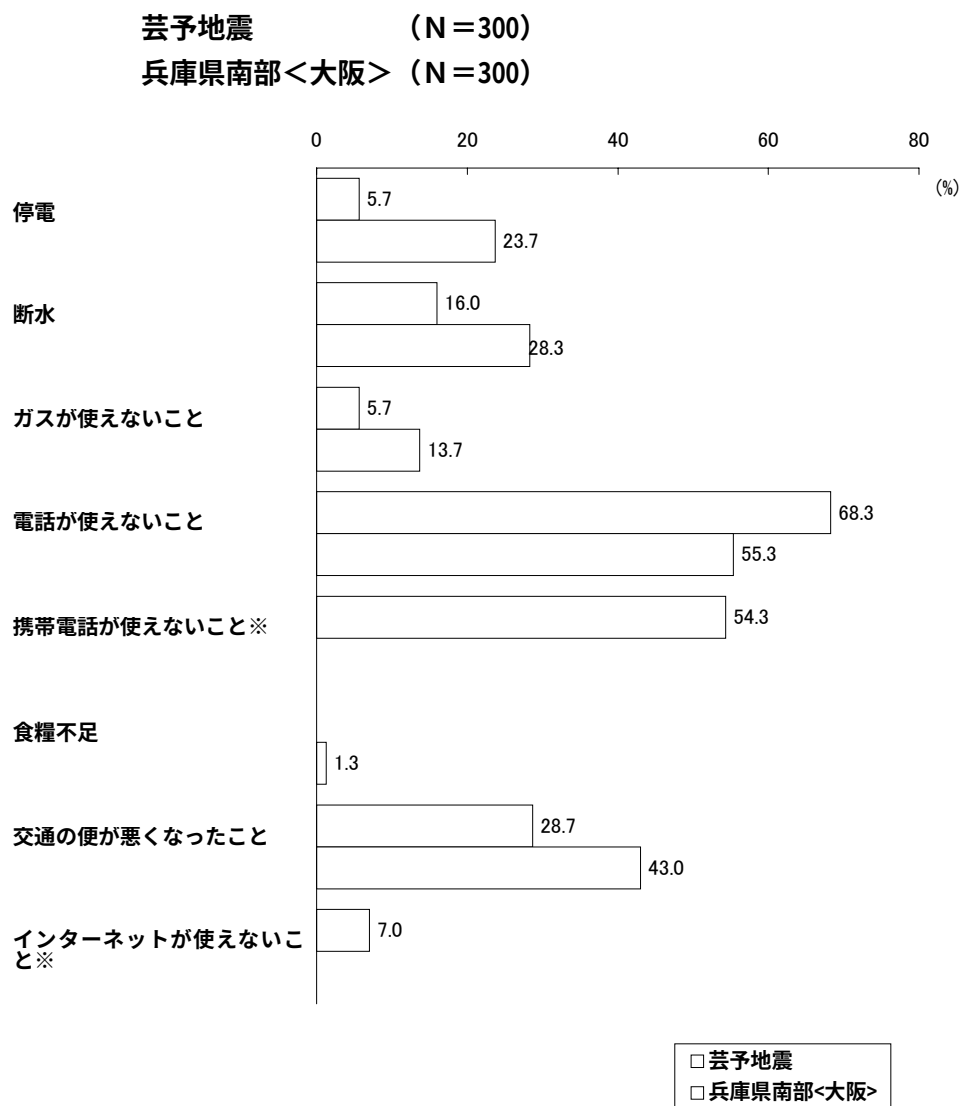
問5 家具など家のなかのものの被害はいかがでしたか。



◆ライフライン(電気・水道・ガス)の被害は少なかったものの、

一般電話、携帯電話とも半数以上が不通状態に

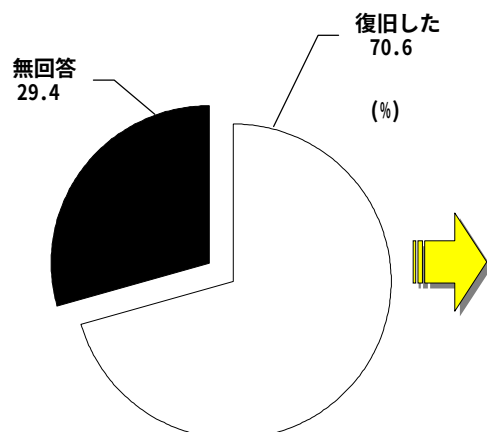
問6 地震のあった日は、その日のうちに、あなたは次のような被害がありましたか。それぞれについてお答え下さい。



※印は「地域防災に関する都市住民アンケート調査」の設問にない選択肢

復旧状況～停電

N = 17



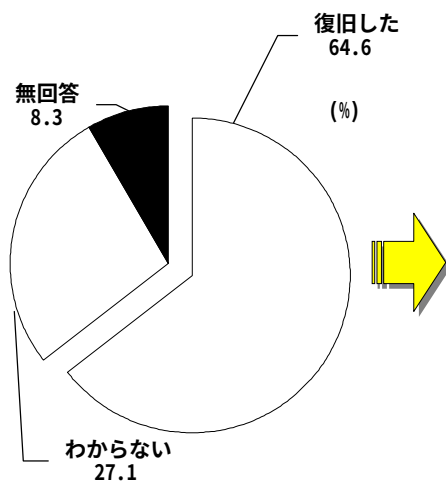
復旧日時～停電

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
12	10	—	—	1	—	—	—	—	1
100.0	83.3	—	—	8.3	—	—	—	—	8.3

復旧状況～断水

N = 48



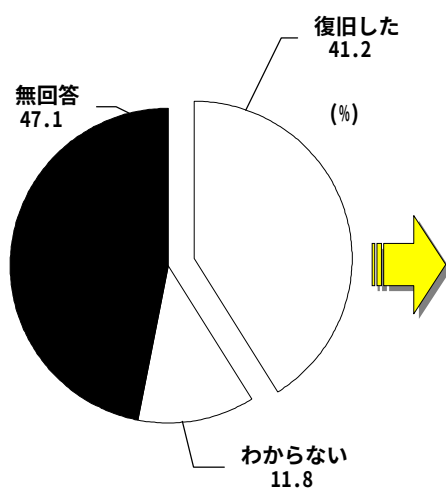
復旧日時～断水

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
31	1	1	16	3	1	4	1	—	4
100.0	3.2	3.2	51.6	9.7	3.2	12.9	3.2	—	12.9

復旧状況～ガス

N = 17



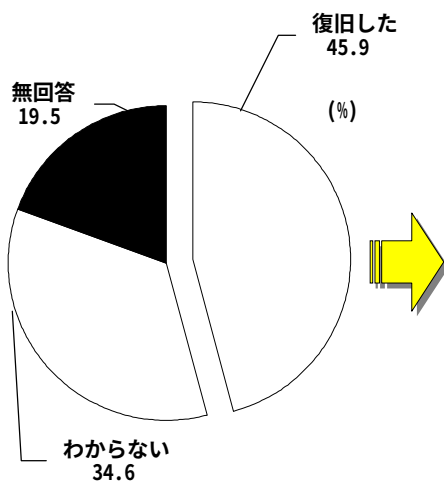
復旧日時～ガス

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
7	5	1	—	1	—	—	—	—	—
100.0	71.4	14.3	—	14.3	—	—	—	—	—

復旧状況～電話

N = 205



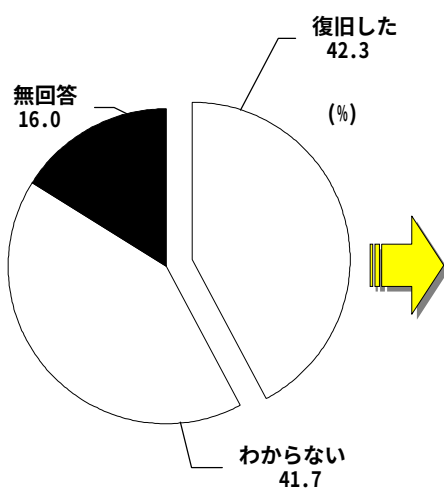
復旧日時～電話

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
94	41	41	3	4	1	1	—	—	3
100.0	43.6	43.6	3.2	4.3	1.1	1.1	—	—	3.2

復旧状況～携帯電話

N = 163



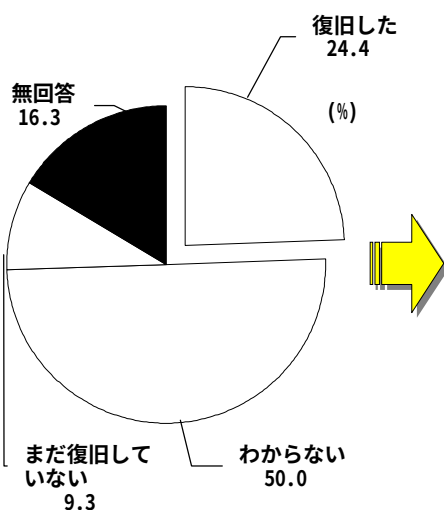
復旧日時～携帯電話

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
69	34	26	5	1	—	—	—	—	3
100.0	49.3	37.7	7.2	1.4	—	—	—	—	4.3

復旧状況～交通の便

N = 86



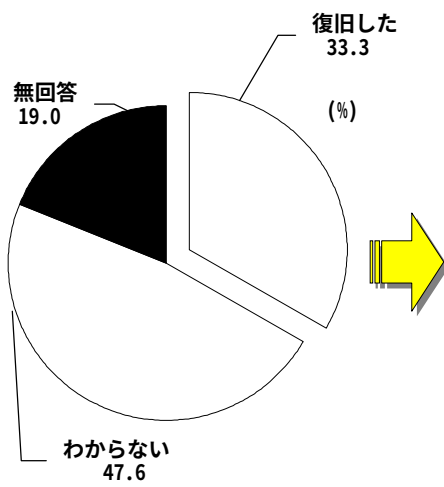
復旧日時～交通の便

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～19 時頃	20 時～24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
21	3	10	1	1	1	1	1	—	3
100.0	14.3	47.6	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	—	14.3

復旧状況～インターネット

N = 21



復旧日時～インターネット

(上段：実数、下段：比率)

全体	24 日		25 日		26 日		27 日		無回答
	16 時～ 19 時頃	20 時～ 24 時頃	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
7	—	4	2	—	—	—	—	—	1
100.0	—	57.1	28.6	—	—	—	—	—	14.3

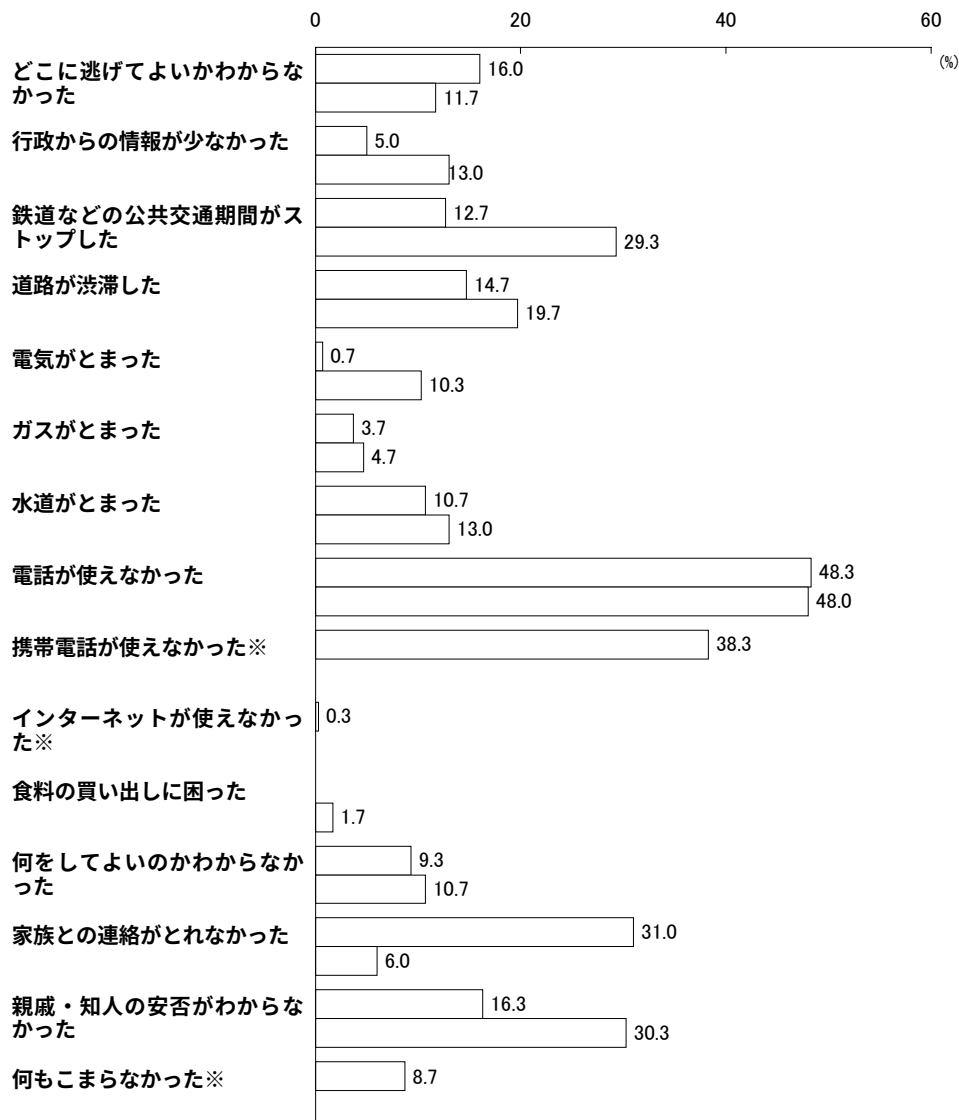
◆電話不通による情報不足に意見が集中

「電話が使えなかった」(48.3%)、「携帯電話が使えなかった」(38.3%)、「家族との連絡が取れなかった」(31.0%)が上位項目に。

問7 あなたは今回の地震で何が最も困りましたか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお答えください。

芸予地震 (N=300)

兵庫県南部<大阪> (N=300)



□ 芸予地震

□ 兵庫県南部<大阪>

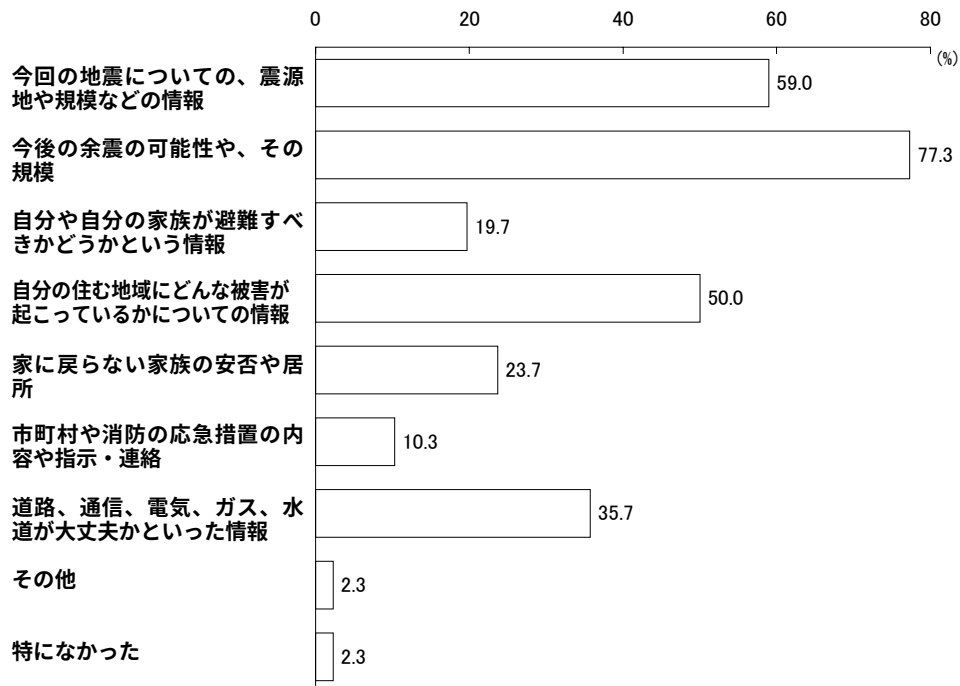
※印は「地域防災に関する都市住民アンケート調査」の設問にない選択肢

◆現状以上に知りたいのは「今後の余震の可能性や、その規模」

次いで、「今回の地震についての震源地や規模などの情報」、「自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報」などの現状が続く。

問8 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつかもお答えください。

(N=300)



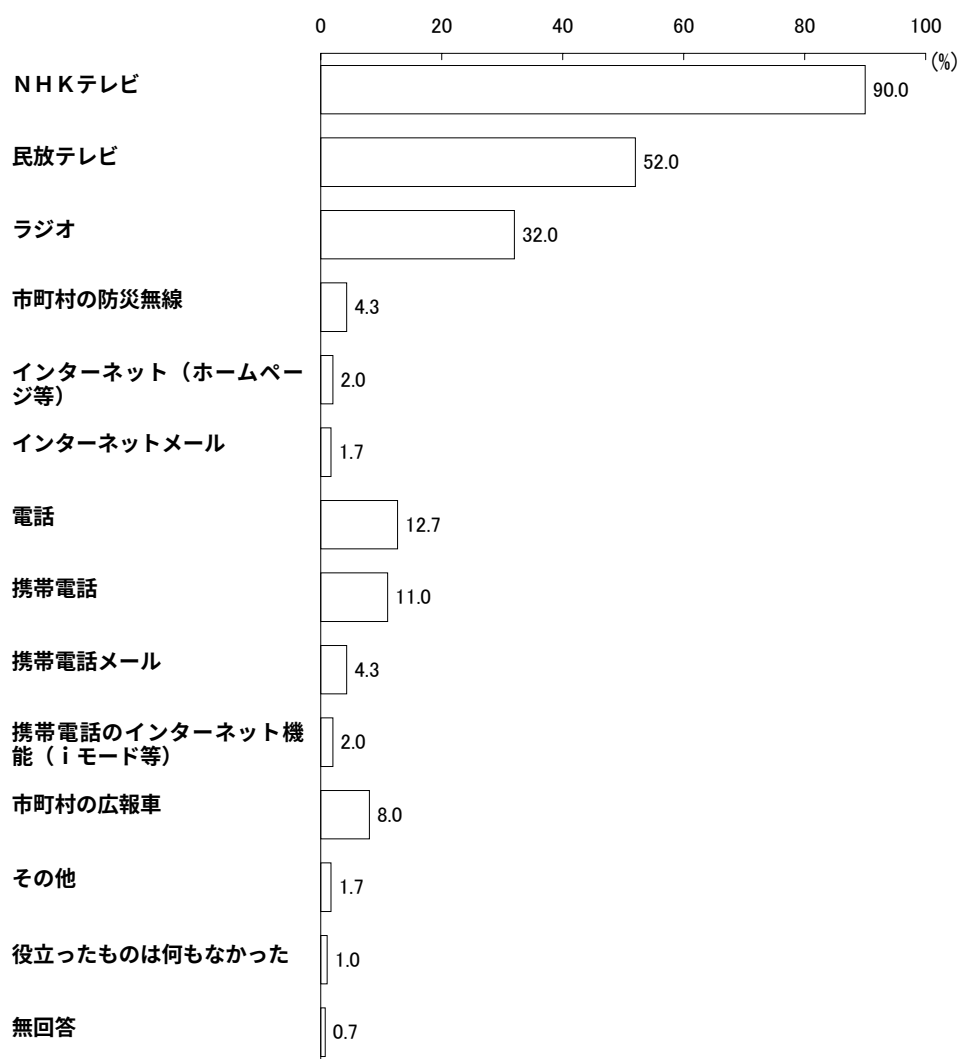
◆「災害情報＝NHKテレビ」の意識が定着

役立った媒体では9割の方が、NHKテレビと回答。民放テレビも半数以上が回答。
情報の満足度は、マスメディアの情報にはほぼ満足も、電話では半数が不十分と回答。

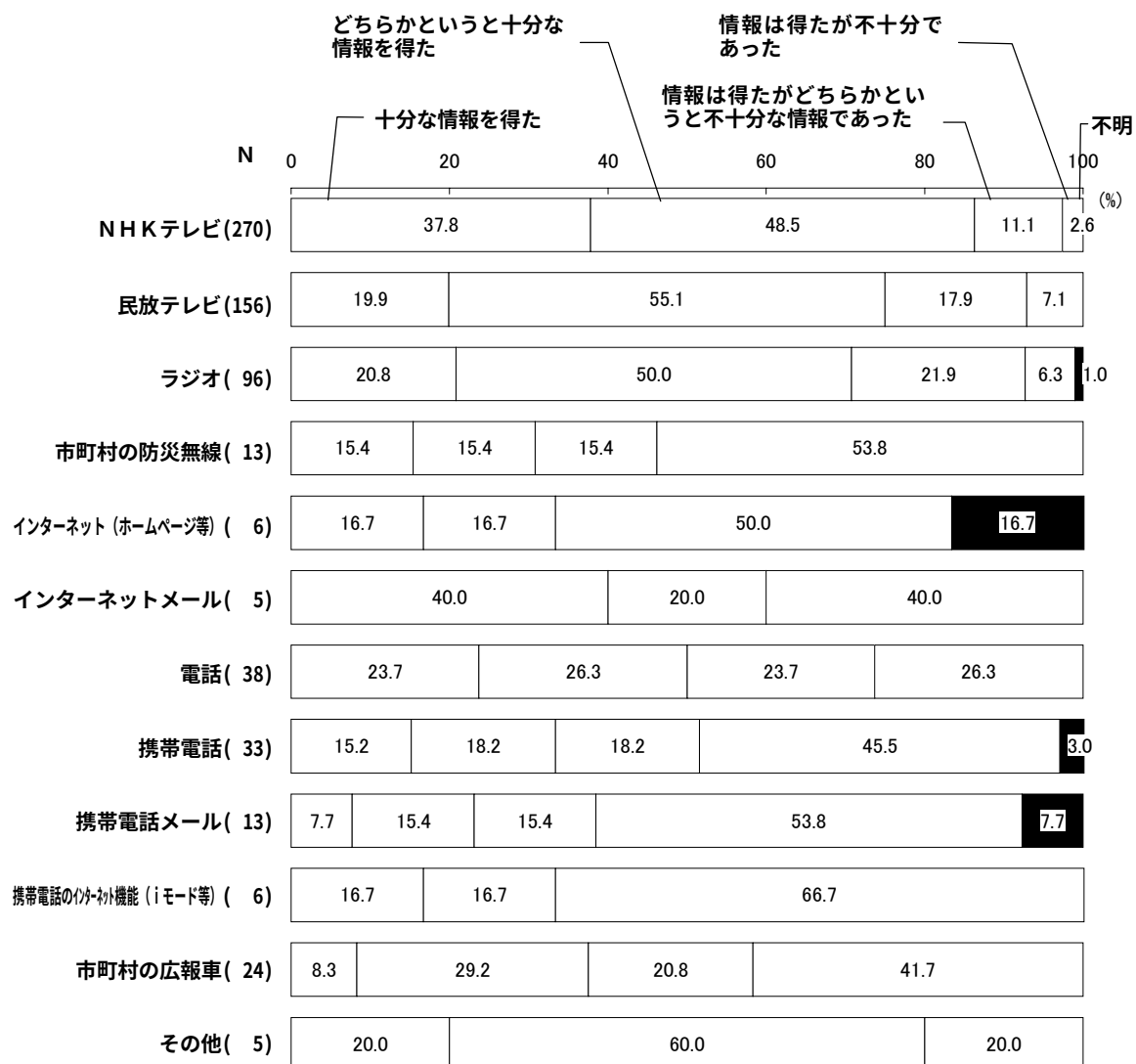
問9 情報を知るために役に立ったものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも
お答えください。

また、それらの方法で得た情報には、どの程度満足しましたか。方法ごとに選んでお答え
下さい。

① 情報を知るために役立った媒体 (N=300)



② 情報満足度

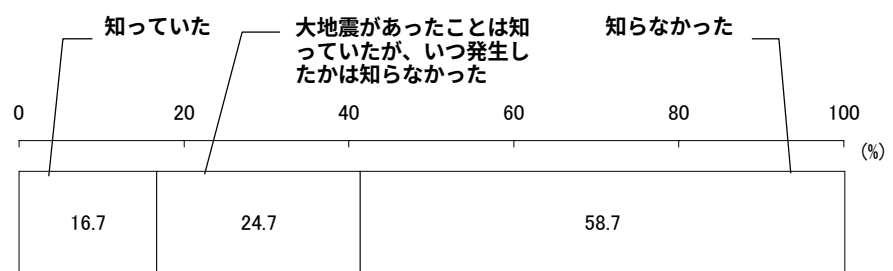


◆過去の安芸灘地震の認知度は約4割

認知媒体はテレビ・ラジオ、新聞・雑誌のマスメディアからが大半

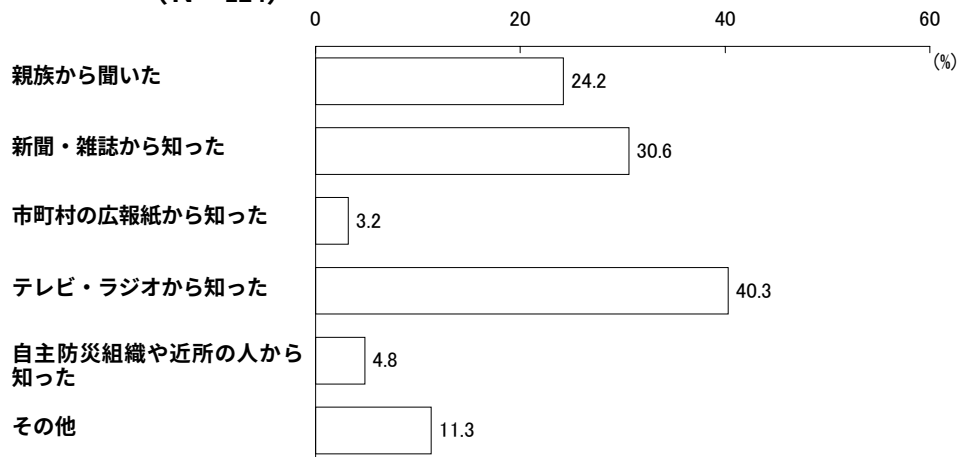
問10 安芸灘地域を震源とする今回と同規模の地震は、約 100 年前（1905 年）と約 50 年前（1949 年）にも発生しています。今回の地震前にそのことを知っていましたか。

(N = 300)



問11 安芸灘地域を震源とする過去の地震の情報をどこから得ましたか。

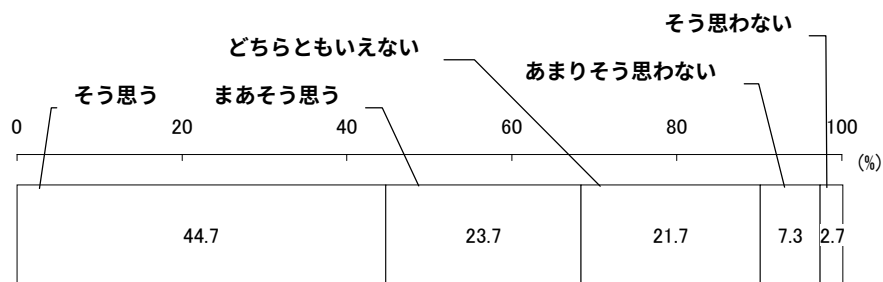
(N = 124)



◆7割近くが、過去の地震についての広報に期待

問12 あなたは、安芸灘地域を震源とする地震の過去の発生や被害状況についてもっと行政や報道機関が広報したほうが良かったと思いますか。

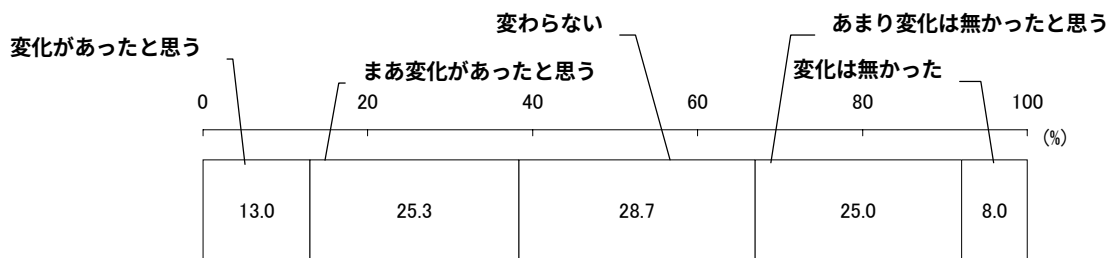
(N=300)



◆4割近くが、地震の広報により行動に変化があったと回答

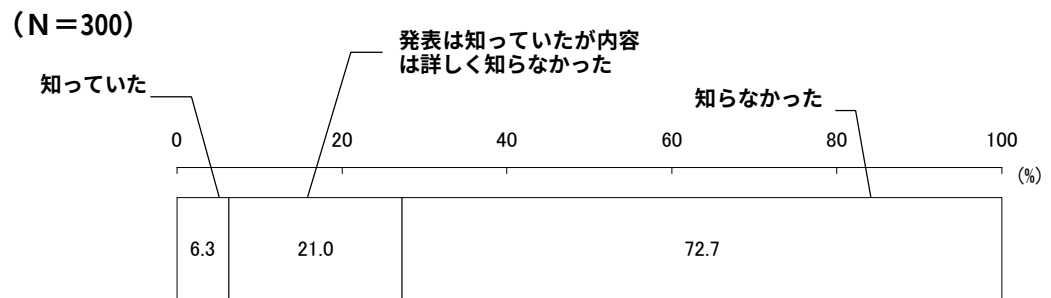
問13 行政や報道機関が安芸灘地域の過去の地震についてもっと広報していた場合、あなたの行動に変化があったと思いますか。

(N=300)



◆調査結果の内容まで知っていたのは 6.3%にとどまる

問14 広島県が、県内での地震を想定した調査結果を平成9年に発表したことは知っていましたか。

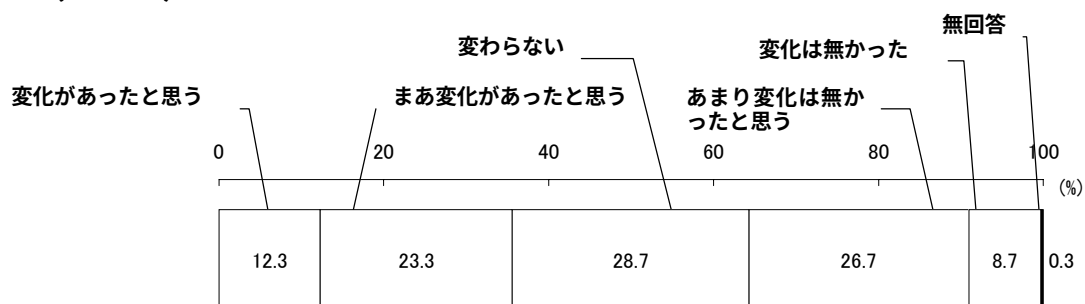


◆35.6%の方が、地震の長期予測により行動が変化すると回答

「行政や報道機関による過去の広報による行動変化(前々頁参照)」と差異はみられず

問15 仮に、安芸灘地域を震源とした地震について「いまを含め数百年の間に起こるだろう」といった長期予測が出ていたとしたら、あなたの地震に対する準備に変化があったと思いますか。

(N=300)

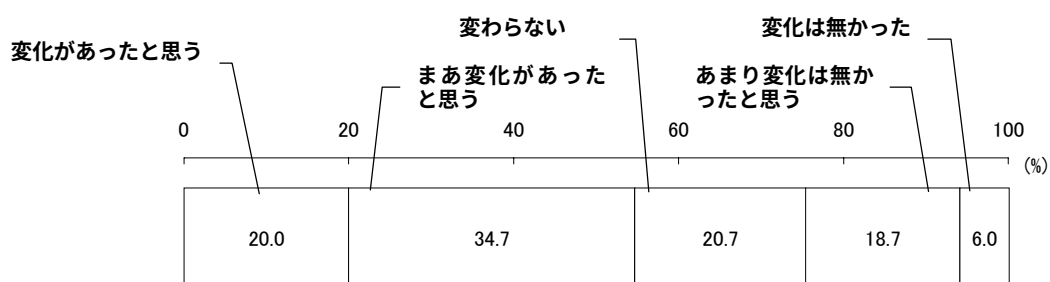


◆54.7%の方が、地震の中期予測により行動が変化すると回答

長期予測による行動変化に比べ2割が「変化する」に移行

問16 仮に、安芸灘地域を震源とした地震について「今を含めた今後 30 年間に数%の発生確率がある」という中期予測が出ていたとしたら、あなたの地震に対する準備に変化があったと思いますか。

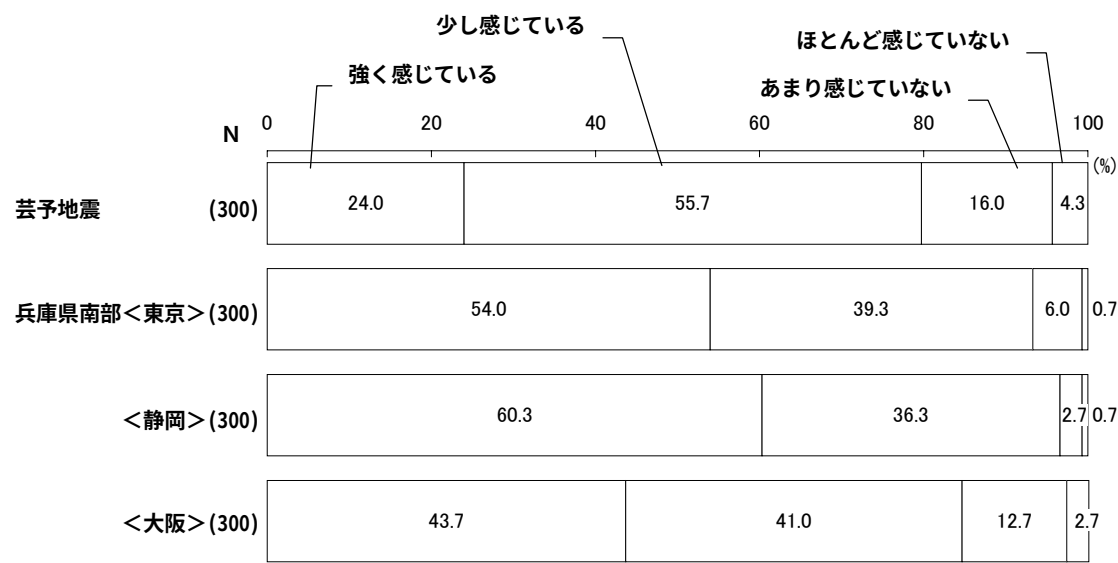
(N=300)



◆静岡、東京に比べ大地震に対しての不安の感じ方は弱い

不安を「強く感じている」のは、静岡、東京の半数以下、大阪と比べても2割減

問17 あなたは、近い将来、この地域で、「芸予地震」やそれを超えるような大地震が起こるのではないかという不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを1つお答えください。



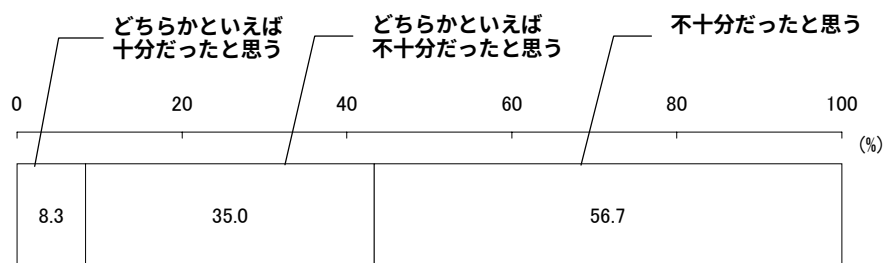
◆地震前、地震後とも、「地震への備え」が十分だと思っている方は1割程度

他地区とも「地震への備え」の意識の差はみられない

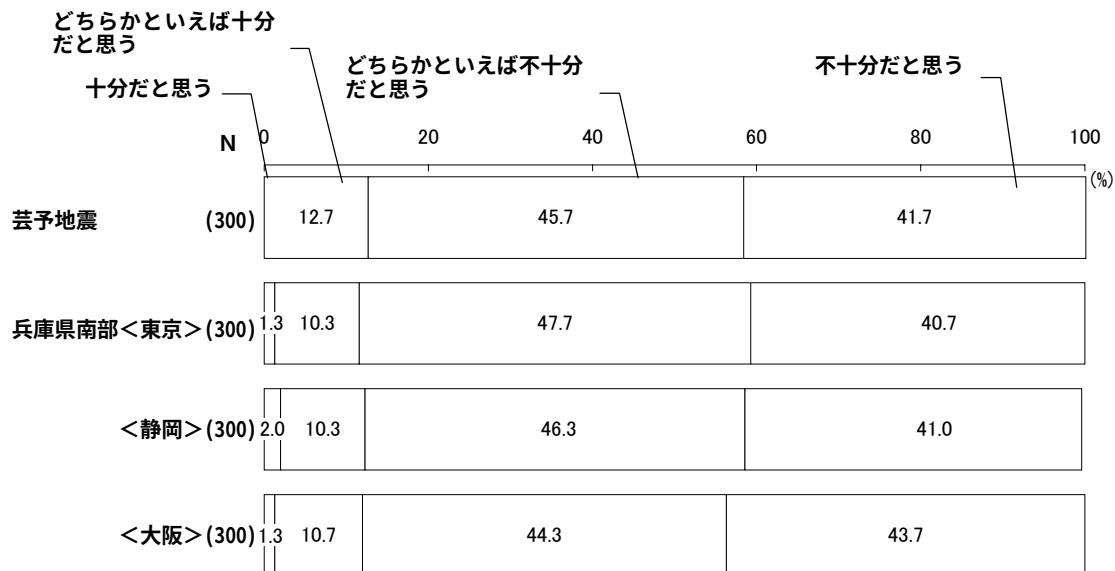
問18 お宅の地震などへの備えは、十分だと思いますか。今回の地震前と地震後に分けて、次の中からあてはまるものを1つお答えください。

<地震前> 地震への備え意識

(N=300)



<地震後> 地震への備え意識

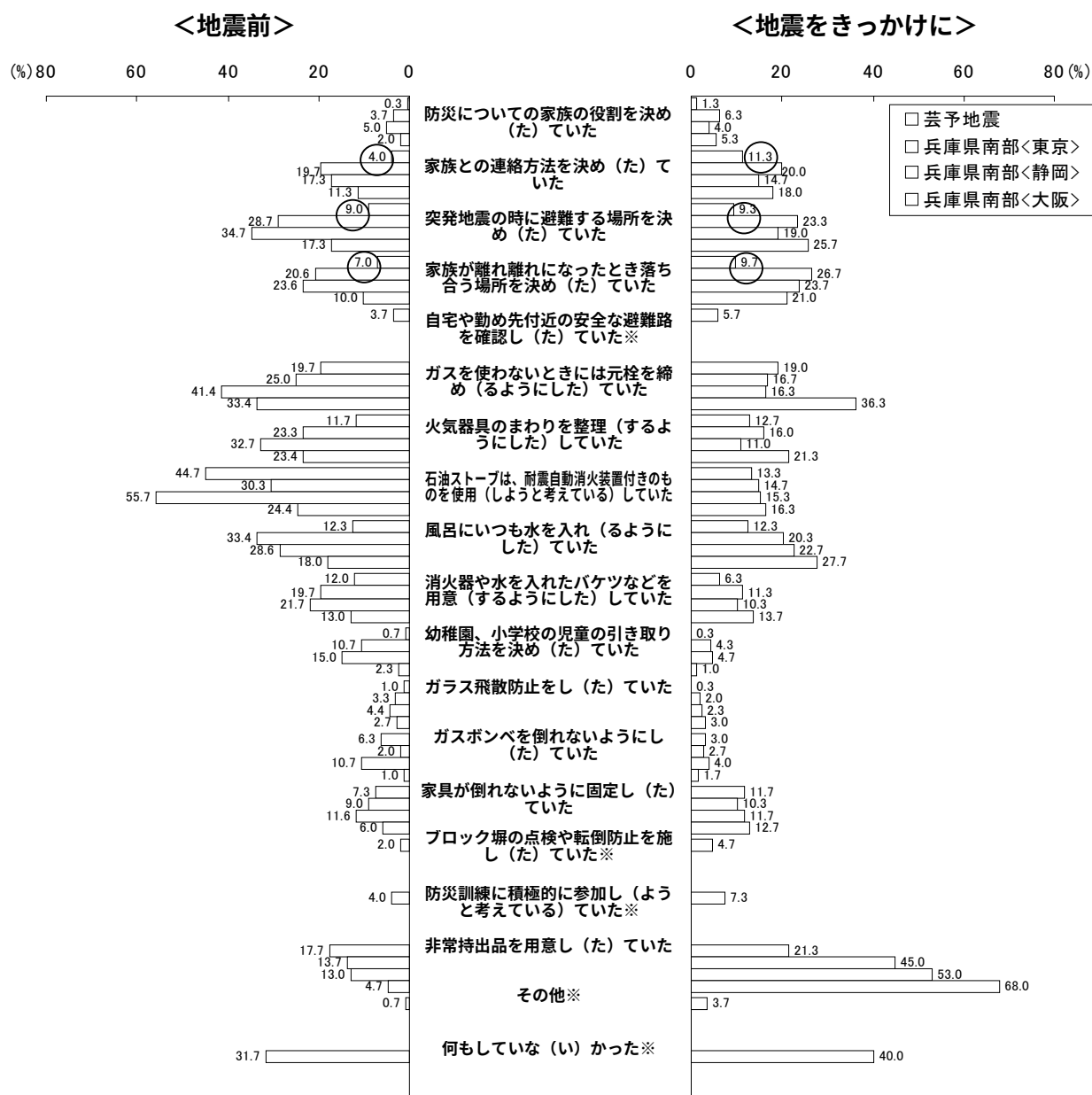


◆他地区と比べ「家族との連絡方法」「突発地震時の避難場所」などの備えはもっ

とも低く、地震をきっかけに改善した割合も、もっとも低い

問19 次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものがありましたら、今回の地震前と地震後に分けて、次の中からいくつでもお選び下さい。

芸予地震 (N=300) 兵庫県南部<東京> (N=300)
兵庫県南部<静岡> (N=300) 兵庫県南部<大阪> (N=300)



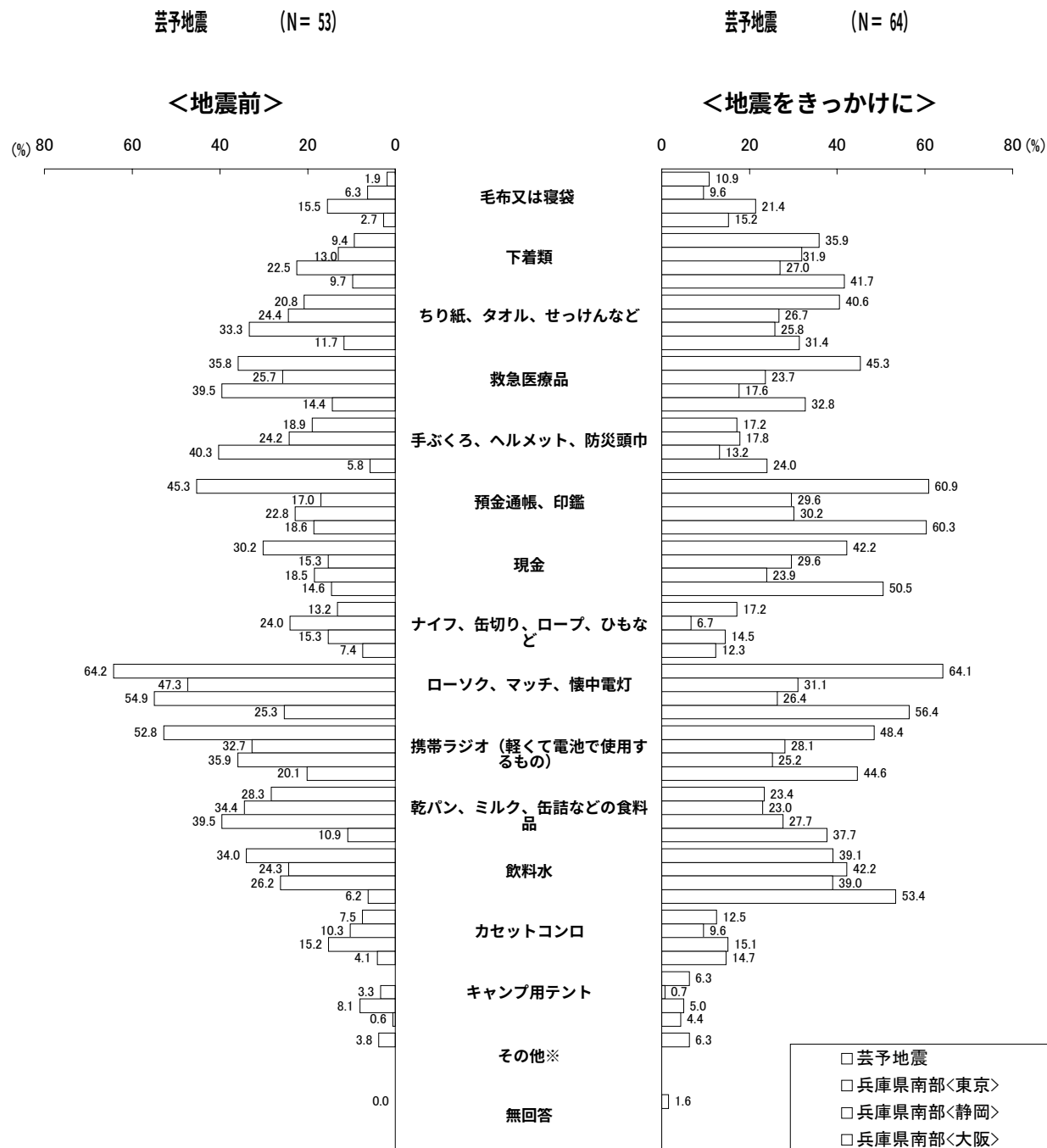
注1）※印は「地域防災に関する都市住民アンケート調査」の設問にない選択肢

注2）「地域防災に関する都市住民アンケート調査」は「地震前」の設問がなく、「地震後の現況」と「地震をきっかけに」となっているため、比較の便宜上、{「地震後の現況」－「地震をきっかけに」}の値を「地震前」の結果としている。

◆「ローソク、マッチ、懐中電灯」「携帯ラジオ」「現金・預金通帳」の準備が、他地区に比べ高い

「非常持出品を用意している」と答えた方に

問20 お宅では、非常持出品として、何を用意していますか。今回の地震前と地震後に分けて、次の中から用意してあったもの、用意したものをいくつでもお選び下さい。



注1) ※印は「地域防災に関する都市住民アンケート調査」の設問にない選択肢

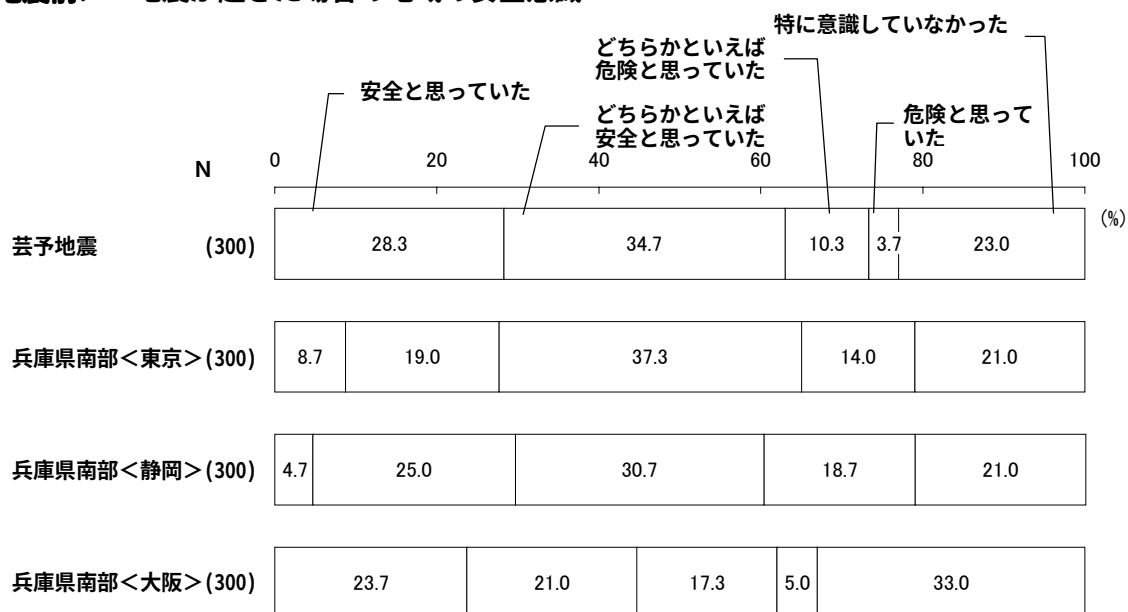
注2) 「地域防災に関する都市住民アンケート調査」は「地震前」の設問がなく、「地震後の現況」と「地震をきっかけに」となっているため、比較の便宜上、{「地震後の現況」－「地震をきっかけに」}の値を「地震前」の結果としている。

◆地震前 → 6割以上が安全 大阪の結果を上回る

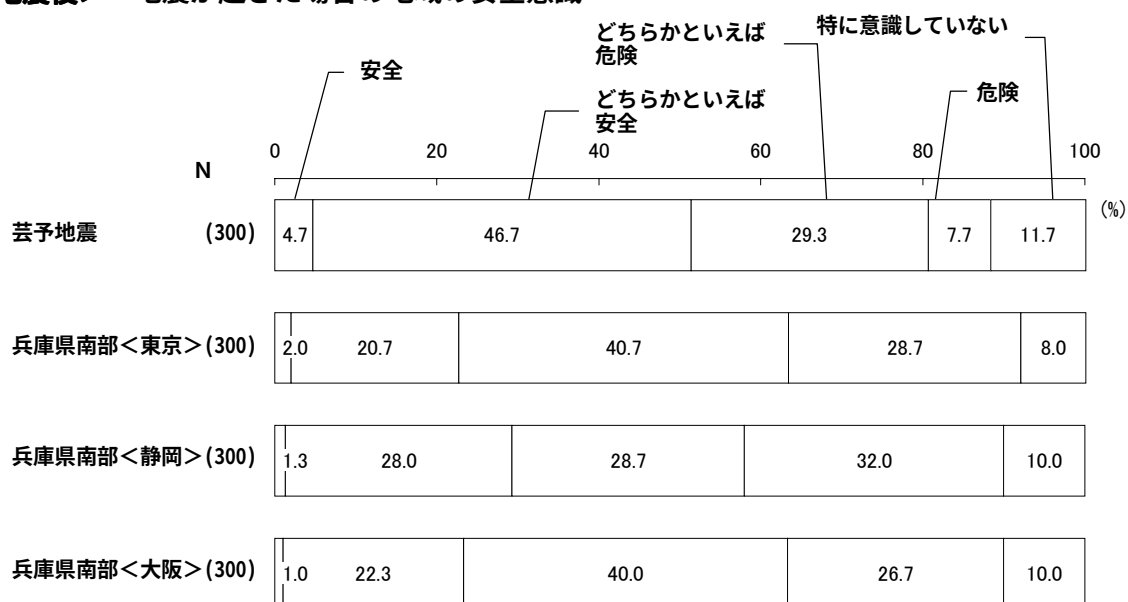
地震後 → 半数が安全 大阪に比べ意識変化は小さい

問21 あなたの住んでいる地域は、地震による災害に対し、安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。次の中からあてはまるものを1つお答え下さい。

<地震前> 地震が起きた場合の地域の安全意識



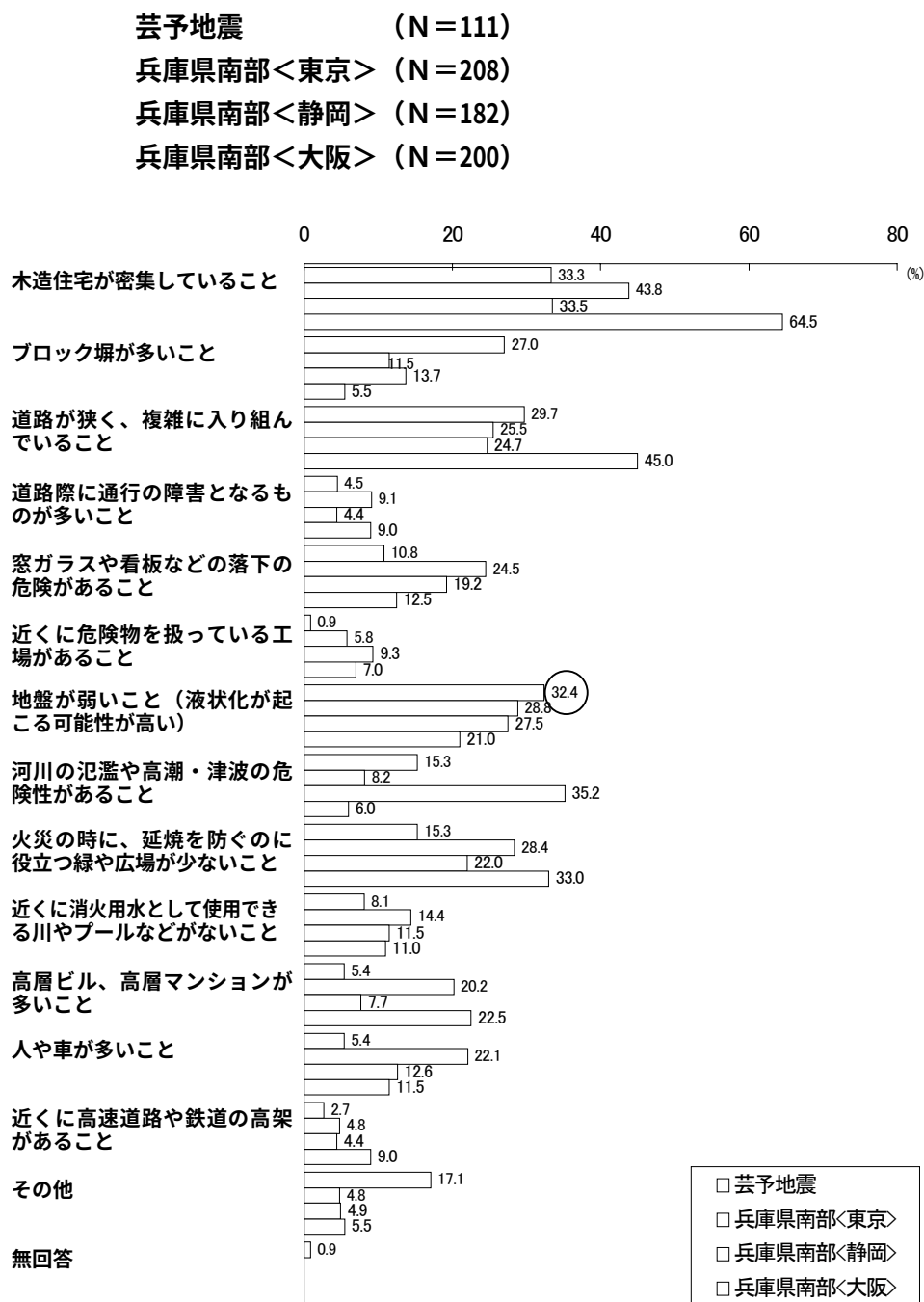
<地震後> 地震が起きた場合の地域の安全意識



◆「地盤が弱いこと(液状化が起こる可能性が高い)」が芸予地区で特徴的

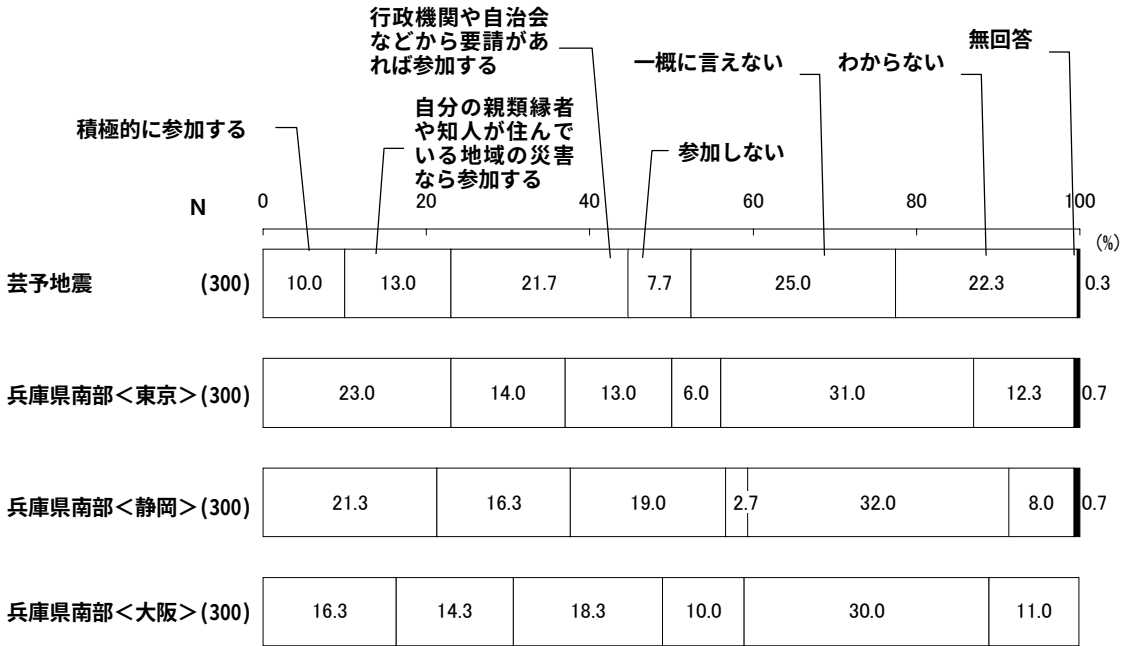
「危険」「どちらかといえば危険」と答えた方に

問22 この地域はどのような点が危険だと思いますか。次の中から特に危険だと感じていることを3つまでお答え下さい。



◆「積極的に参加する」は10%と、他地区に比べもっとも低い

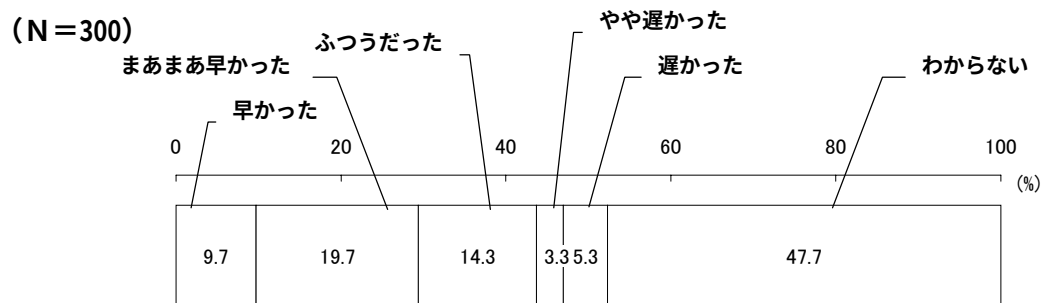
問23 今回の「芸予地震」や6年前の「兵庫県南部地震」のような災害が発生すると、救援・医療活動や復旧活動、物資の搬送や情報伝達といった様々な活動が必要になってきます。あなたは、ご自身が住んでいる地域以外で災害が発生したとき、このような活動にボランティアとして参加したいと思いますか。



◆「早かった」と感じた方が、「遅かった」と感じた方を上回る

行政の対応が、「早かった」「まあまあ早かった」は約3割で、「やや遅かった」「遅かった」の約1割を上回る。しかし、約半数が「わからない」と回答。

問24 ところで、今回の地震における、行政の災害への対応（水の補給、屋根シート提供、食料補給、救済制度の運用など）スピードはどうでしたか。次の中からあてはまるものを1つお答え下さい。

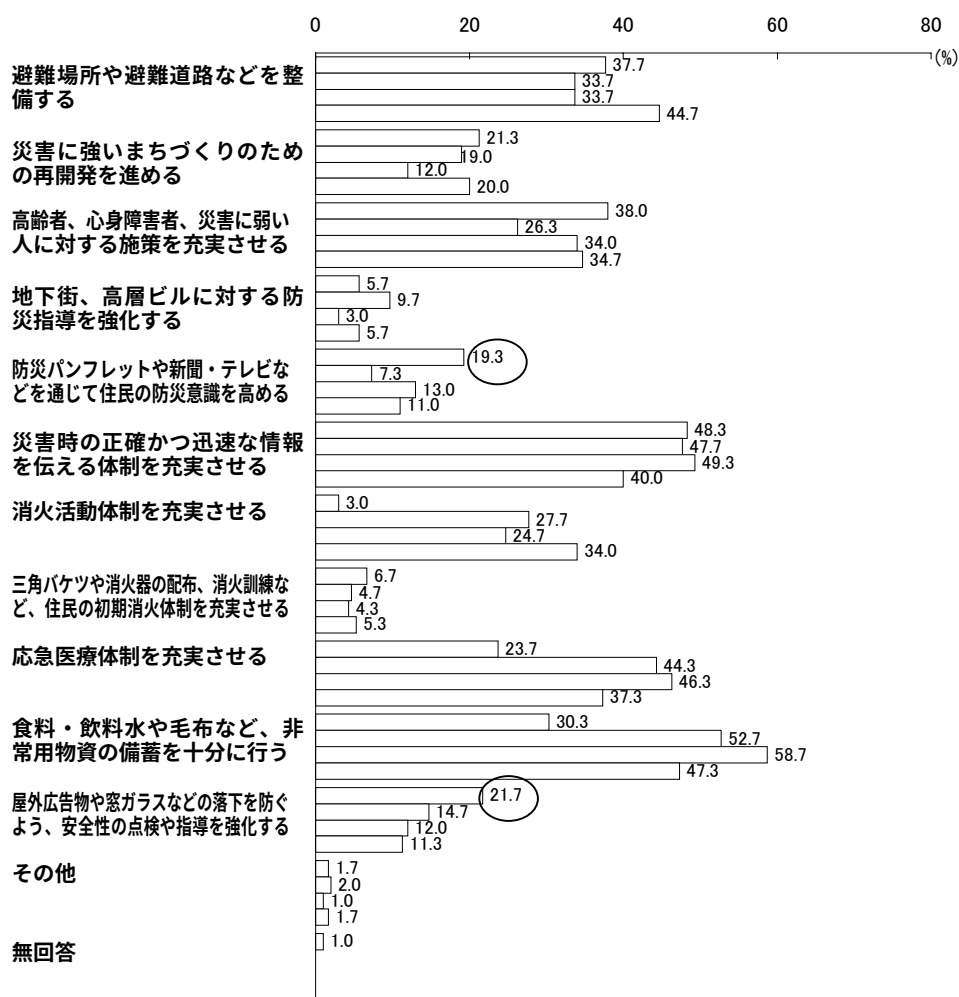


◆「安全点検・指導」、「防災意識の高揚」が他地区に比べ高い

「災害時の性格かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」がもっとも高かったが、「屋外広告物や窓ガラスなどの落下を防ぐよう、安全性の点検や指導を強化する」「防災パンフレットや新聞・テレビなどを通じて住民の防災意識を高める」で、他地区に比べ高いのが特徴的。

問25 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものを3つまでお答え下さい。

芸予地震 (N=300)
 兵庫県南部<東京> (N=300)
 兵庫県南部<静岡> (N=300)
 兵庫県南部<大阪> (N=300)



□ 芸予地震
 □ 兵庫県南部<東京>
 □ 兵庫県南部<静岡>
 □ 兵庫県南部<大阪>

IV 質問と回答

※表中の数字は構成比（％）、（ ）内の数字は回答者数、－は選択肢の無いものを表す。

芸予地震以外は、兵庫県南部地震直後(平成7年1月実施)に調査。特に表記の無い場合は今回の調査

平成13年芸予地震に関する住民アンケート調査

問1 3月24日 15時28分に「芸予地震」が発生しましたが、今回の「芸予地震」が起きたときあなたはどこにいましたか。（「兵庫県南部地震」が発生した時どこにいましたか。）

	芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1 自宅にいた	(300) 45.3	(300) 94.3
2 建物の外にいた	15.7	1.0
3 自宅以外の建物の中にいた	27.3	4.3
4 車で走っていた	9.3	0.3
5 電車やバスなどに乗っていた	2.0	－
(無回答)	0.3	0.0

問2 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あなたが行った行動を、最初にしたものから順に3つまで答えてください。

	芸予地震			兵庫県南部地震（大阪）		
	1 番目 (300)	2 番目 (226)	3 番目 (150)	1 番目 (300)	2 番目 (300)	3 番目 (300)
1 じっと様子をみていた	44.3	18.1	19.3	49.7	14.0	8.3
2 歩けなかった（動けなかった）	6.0	14.2	4.7	16.3	10.7	1.3
3 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	6.7	6.6	5.3	2.3	6.7	6.7
4 家具や壊れ物を押さえたりした	1.3	8.4	3.3	3.7	4.7	2.0
5 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	3.0	6.2	4.7	6.3	6.7	2.7
6 頑丈なものにつかまって身を支えた	4.0	5.3	4.7	1.0	3.3	2.0
7 子供や老人、病人などを保護した	10.7	6.2	5.3	12.0	9.0	3.0
8 戸、窓などを開けた	4.7	3.5	6.0	1.3	6.7	7.7
9 家や建物の外に飛び出した	3.7	7.5	9.3	0.7	0.7	3.7
10 建物のなかに飛び込んだ	0.0	0.4	0.0	0.0	0.3	0.0
11 安全な場所に避難した	2.0	4.4	9.3	0.3	0.3	0.3
12 車を止めた	4.7	0.4	0.0	0.3	0.3	0.3
13 まわりの人の安全を確かめようとした	3.0	14.6	21.3	1.7	14.7	11.0
14 無我夢中でおぼえていない	0.0	1.3	2.0	1.0	0.7	4.0
15 その他	4.7	2.7	4.7	1.7	3.3	2.7
16 何もしなかった	1.3	-	-	1.7	11.7	19.7

注）芸予地震調査については、「2番目の行動」「3番目の行動」が無回答の場合、集計から除外した。

問3 地震の揺れがおさまった後、あなたは何をしましたか。時間帯別にあてはまるものを全てお答えください。

(300)

	芸予地震				兵庫県南部地震（大阪）		
	地震発生から30分までの	16時から19時までの	19時から翌日の	翌日	まず何をしましたか（SA）	次に何をしましたか（SA）	そのあと、何をしましたか（SA）
自分のケガの手当をした（病院へ行ったものも含む）	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0
ケガをした人の介抱をした	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.3
家族・友人・知人の安否を確かめようとした	46.3	37.7	24.3	12.7	21.3	24.7	9.0
テレビ・ラジオに注意	59.7	51.7	53.3	41.0	60.0	22.0	6.3
新聞（朝刊）に注意した	0.3	2.0	1.3	49.7	—	—	—
まわりの人と話し合った	31.0	19.7	7.3	19.3	1.7	11.0	13.0
町役場や測候所などに問い合わせた	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
職場と連絡をとったり、職場にかけつけたりした	6.0	6.3	3.3	2.3	0.7	3.0	4.3
現金や貴重品・非常食などの持ち出し準備をした	1.7	1.3	2.7	1.0	0.7	3.0	5.3
水のくみ置きをした	3.3	2.3	3.7	2.0	1.3	4.0	4.0
屋外の安全な場所に避難した	5.3	0.3	0.0	0.0	2.0	1.0	0.3
舟を沖に出した	0.3	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
帰宅した	15.0	17.0	5.3	0.3	1.0	0.7	1.0
子供を迎えに行った	2.7	1.3	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0
食料・飲料水などを買い出しに行った	1.3	3.0	2.3	3.0	0.0	0.3	3.0
自宅の被害箇所の点検・修理をした	15.0	27.7	6.7	10.0	1.0	4.0	5.7
こわれ物などの後片づけを始めた	20.3	29.3	15.7	9.7	3.3	10.0	12.0
被害を受けた人の家に手伝いに行った	2.3	3.0	2.0	3.3	0.0	1.0	0.7
周りの被害の状況を見に行った	9.0	12.3	5.3	5.7	1.3	3.3	7.0
おぼえていない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	1.3
その他	3.7	3.7	2.0	4.3	3.3	3.3	3.0
何もしなかった	5.0	6.0	15.3	10.7	1.3	5.3	11.7
（無回答）	0.7	1.3	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0

問4 お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。次の中から1つだけお答えください

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	家が全壊した	(300) 0.0	(300) 0.3
2	家が半壊した	0.0	0.3
3	一部にひびや亀裂がはいった	24.0	20.0
4	ほとんど被害はなかった	35.0	28.7
5	全く被害はなかった	41.0	50.7

問5 では、家具など家のなかのものの被害はいかがでしたか。次の中からあてはまるものを1つだけお答えください。

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	タンス、食器棚、冷蔵庫、ステレオなど安定した大きなものが倒れ、食器やビン類などがこわれた	(300) 6.0	(300) 10.4
2	倒れはしなかったが、扉が開くなどして、中の食器やビン類などがこわれた	28.0	16.7
3	花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものがこわれたり、落下した程度	42.7	26.0
4	被害はなかった	23.3	47.0

問6 地震のあった日は、その日のうちに、あなたは次のような被害がありましたか。それぞれについてお答えください。

1. 停電

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300) 5.7	(300) 23.7
2	なかった (無回答)	94.3 0.0	75.7 0.6

1-1. 停電の復旧状況

		(17)
1	復旧した	70.6
2	わからない	0.0
3	まだ復旧していない (無回答)	0.0 29.4

1-2. 停電の復旧日時

		(12)
	24日16時～19時頃	83.3
	25日午後	8.3
	(無回答)	8.3

2. 断水

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300) 16.0	(300) 28.3
2	なかった (無回答)	84.0 0.0	71.0 0.7

2-1. 断水の復旧状況

		(48)
1	復旧した	64.6
2	わからない	27.1
3	まだ復旧していない (無回答)	0.0 8.3

2-2. 断水の復旧日時

		(31)
	24日16時～19時頃	3.2
	24日20時～24時頃	3.2
	25日午前	51.6
	25日午後	9.7
	26日午前	3.2
	26日午後	12.9
	27日午前	3.2
	(無回答)	12.9

3. ガスが使えないこと

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300) 5.7	(300) 13.7
2	なかった (無回答)	94.3 0.0	85.3 1.0

3-1. ガスの復旧状況

		(17)
1	復旧した	41.2
2	わからない	11.8
3	まだ復旧していない (無回答)	0.0 47.1

3-2. ガスの復旧日時

		(7)
	24日16時～19時頃	71.4
	24日20時～24時頃	14.3
	25日午前	0.0
	25日午後	14.3

4. 電話が使えないこと

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300) 68.3	(300) 55.3
2	なかった	31.7	44.7

4-1. 電話の復旧状況

		(205)
1	復旧した	45.9
2	わからない	34.6
3	まだ復旧していない (無回答)	0.0 19.5

4-2. 電話の復旧日時

		(94)
	24日16時～19時頃	43.6
	24日20時～24時頃	43.6
	25日午前	3.2
	25日午後	4.3
	26日午前	1.1
	26日午後	1.1
	(無回答)	3.2

5. 携帯電話が使えないこと

		(300)
1	あった	54.3
2	なかった	10.7
3	携帯電話を持っていないのでわからない	34.7
	(無回答)	0.3

5-1. 電話の復旧状況

		(163)
1	復旧した	42.3
2	わからない	41.7
3	まだ復旧していない	0.0
	(無回答)	16.0

5-2. 電話の復旧日時

		(69)
	24日16時～19時頃	49.3
	24日20時～24時頃	37.7
	25日午前	7.2
	25日午後	1.4
	(無回答)	4.3

6. 食料不足

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300)	(300)
2	なかった	0.0	1.3
	(無回答)	100.0	97.3
		0.0	1.3

7. 交通の便が悪くなったこと

		芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
1	あった	(300)	(300)
2	なかった	28.7	43.0
	(無回答)	69.7	56.3
		1.7	0.7

7-1. 交通の便が悪くなったことの復旧状況

		(86)
1	復旧した	24.4
2	わからない	50.0
3	まだ復旧していない	9.3
	(無回答)	16.3

7-2. 交通の便の復旧日時

		(21)
	24日16時～19時頃	14.3
	24日20時～24時頃	47.6
	25日午前	4.8
	25日午後	4.8
	26日午前	4.8
	26日午後	4.8
	27日午前	4.8
	(無回答)	14.3

8. インターネットが使えないこと

		(300)
1	あった	7.0
2	なかった	29.0
3	パソコンを持っていないのでわからない	62.7
	(無回答)	1.3

8-1. インターネットが使えないことの復旧状況

		(21)
1	復旧した	33.3
2	わからない	47.6
3	まだ復旧していない	0.0
	(無回答)	19.0

8-2. インターネットの復旧日時

		(7)
	24日16時～19時頃	0.0
	24日20時～24時頃	57.1
	25日午前	28.6
	(無回答)	14.3

- 問7 あなたは今回の地震で何が最も困りましたか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお答えください。
(3つ以内)

	芸予地震	兵庫県南部地震（大阪）
	(300)	(300)
1 どこに逃げてよいかわからなかった	16.0	11.7
2 行政からの情報が少なかった	5.0	13.0
3 鉄道などの公共交通機関がストップした	12.7	29.3
4 道路が渋滞した	14.7	19.7
5 電気がとまった	0.7	10.3
6 ガスがとまった	3.7	4.7
7 水道がとまった	10.7	13.0
8 電話が使えなかった	48.3	48.0
9 携帯電話が使えなかった	38.3	—
10 インターネットが使えなかった	0.3	—
11 食料の買い出しに困った	0.0	1.7
12 何をしてよいのかわからなかった	9.3	10.7
13 家族との連絡がとれなかった	31.0	6.0
14 親戚・知人の安否がわからなかった	16.3	30.3
15 何もこまらなかった	8.7	—

- 問8 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答え下さい。
(いくつでも)

	(300)
1 今回の地震についての、震源地や規模などの情報	59.0
2 今後の余震の可能性や、その規模	77.3
3 自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	19.7
4 自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報	50.0
5 家に戻らない家族の安否や居所	23.7
6 市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡	10.3
7 道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	35.7
8 その他	2.3
9 特になかった	2.3

問9 では、そのような情報を知るために役にたったものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答え下さい。

		(300)
1	NHKテレビ	90.0
2	民放テレビ	52.0
3	ラジオ	32.0
4	市町村の防災無線	4.3
5	インターネット（ホームページ等）	2.0
6	インターネットメール	1.7
7	電話	12.7
8	携帯電話	11.0
9	携帯電話メール	4.3
10	携帯電話のインターネット機能（iモード等）	2.0
11	市町村の広報車	8.0
12	その他	1.7
13	役だったものは何もなかった （無回答）	1.0 0.7

また、それらの方法で得た情報には、どの程度満足しましたか。方法ごとに下記から選んでお答えください。

		十分な 情報を 得た	ど ち ら か と い え ば 十 分 な 情 報	情 報 は 得 た が ど ち ら か と い う	情 報 は 得 た が 不 十 分 で あ っ た	無 回 答
1	NHKテレビ(270)	37.8	48.5	11.1	2.6	0.0
2	民放テレビ(156)	19.9	55.1	17.9	7.1	0.0
3	ラジオ(96)	20.8	50.0	21.9	6.3	1.0
4	市町村の防災無線(13)	15.4	15.4	15.4	53.8	0.0
5	インターネット（ホームページ等）(6)	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7
6	インターネットメール(5)	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0
7	電話(38)	23.7	26.3	23.7	26.3	0.0
8	携帯電話(33)	15.2	18.2	18.2	45.5	3.0
9	携帯電話メール(13)	7.7	15.4	15.4	53.8	7.7
10	携帯電話のインターネット機能（iモード等）(6)	0.0	16.7	16.7	66.7	0.0
11	市町村の広報車(24)	8.3	29.2	20.8	41.7	0.0
12	その他(5)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0

問10 ところで、安芸灘地域を震源とする今回と同規模の地震は、約100年前（1905年）と約50年前（1949年）にも発生しています。今回の地震前にそのことを知っていましたか。

		(300)
1	知っていた	16.7
2	大地震があったことは知っていたが、いつ発生したのかは知らなかった	24.7
3	知らなかった	58.7

「知っていた」「知っていたが、いつ発生したのかは知らなかった」と答えた方に

問11 安芸灘地域を震源とする過去の地震の情報をどこから得ましたか。

		(124)
1	親族から聞いた	24.2
2	新聞・雑誌から知った	30.6
3	市町村の広報紙から知った	3.2
4	テレビ・ラジオから知った	40.3
5	自主防災組織や近所の人から知った	4.8
6	その他	11.3

問12 あなたは、安芸灘地域を震源とする地震の過去の発生や被害状況についてもっと行政や報道機関が広報したほうが良かったと思いますか。

		(300)
1	そう思う	44.7
2	まあそう思う	23.7
3	どちらともいえない	21.7
4	あまりそう思わない	7.3
5	そう思わない	2.7

問13 行政や報道機関が安芸灘地域の過去の地震についてもっと広報していた場合、あなたの行動に変化があったと思いますか。

		(300)
1	変化があったと思う	13.0
2	まあ変化があったと思う	25.3
3	変わらない	28.7
4	あまり変化は無かったと思う	25.0
5	変化は無かった	8.0

問14 広島県が、県内での地震を想定した調査結果を平成9年に発表したことは知っていましたか

		(300)
1	知っていた	6.3
2	発表は知っていたが内容は詳しく知らなかった	21.0
3	知らなかった	72.7

問15 仮に、安芸灘地域を震源とした地震について「いまを含め数百年の間に起こるだろう」といった長期予測が出ていたとしたら、あなたの地震に対する準備に変化があったと思いますか。

		(300)
1	変化があったと思う	12.3
2	まあ変化があったと思う	23.3
3	変わらない	28.7
4	あまり変化は無かったと思う	26.7
5	変化は無かった	8.7
	(無回答)	0.3

問16 仮に、安芸灘地域を震源とした地震について「今を含めた今後30年間に数%の発生確率がある」という確率予測が出ていたとしたら、あなたの地震に対する準備に変化があったと思いますか。

		(300)
1	変化があったと思う	20.0
2	まあ変化があったと思う	34.7
3	変わらない	20.7
4	あまり変化は無かったと思う	18.7
5	変化は無かった	6.0
	(無回答)	

問17 あなたは、近い将来、この地域で、「芸予地震兵庫県南部地震」やそれを超えるような大地震が起こるのではないかという不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを1つお答えください。

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
1	強く感じている	(300)	(300)	(300)
2	少し感じている	24.0	54.0	60.3
3	あまり感じていない	55.7	39.3	36.3
4	ほとんど感じていない	16.0	6.0	2.7
		4.3	0.7	0.7

問18 お宅の地震などへの備えは、十分だと思いますか。今回の地震前と地震後に分けて、次の中からあてはまるものを1つお答えください。

(地震前)

		(300)
1	十分だった	0.0
2	どちらかといえば十分だったと思う	8.3
3	どちらかといえば不十分だったと思う	35.0
4	不十分だったと思う	56.7

(地震後)

	芸予 地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
	(300)	(300)	(300)	(300)
1	十分だと思う	0.0	1.3	2.0
2	どちらかといえば十分だと思う	12.7	10.3	10.3
3	どちらかといえば不十分だと思う	45.7	47.7	46.3
4	不十分だと思う	41.7	40.7	41.0

問19 次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものがありましたら、今回の地震前と地震後に分けて、次の中からいくつでもお選びください。

(地震前)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
	(300)	(300)	(300)	(300)
1 防災についての家族の役割を決めていた	0.3	10.0	9.0	7.3
2 家族との連絡方法を決めていた	4.0	39.7	32.0	29.3
3 突発地震の時に避難する場所を決めていた	9.0	52.0	53.7	43.0
4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めていた	7.0	47.3	47.3	31.0
5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認していた	3.7	—	—	—
6 ガスを使わないときには元栓を締めていた	19.7	41.7	57.7	69.7
7 火気器具のまわりを整理していた	11.7	39.3	43.7	44.7
8 石油ストーブは、耐震自動消化装置付きのものを使用していた	44.7	45.0	71.0	40.7
9 風呂にいつも水を入れていた	12.3	53.7	51.3	45.7
10 消火器や水を入れたバケツなどを用意していた	12.0	31.0	32.0	26.7
11 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めていた	0.7	15.0	19.7	3.3
12 ガラス飛散防止をしていた	1.0	5.3	6.7	5.7
13 ガスボンベを倒れないようにしていた	6.3	4.7	14.7	2.7
14 家具が倒れないように固定していた	7.3	19.3	23.3	18.7
15 ブロック塀の点検や転倒防止を施していた	2.0	—	—	—
16 防災訓練に積極的に参加していた	4.0	—	—	—
17 非常持出品を用意していた	17.7	58.7	66.0	72.7
18 その他	0.7	—	—	—
19 何もしていなかった	31.7	—	—	—

(地震をきっかけに)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
	(300)	(300)	(300)	(300)
1 防災についての家族の役割を決めた	1.3	6.3	4.0	5.3
2 家族との連絡方法を決めた	11.3	20.0	14.7	18.0
3 突発地震の時に避難する場所を決めた	9.3	23.3	19.0	25.7
4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めた	9.7	26.7	23.7	21.0
5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	5.7	—	—	—
6 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	19.0	16.7	16.3	36.3
7 火気器具のまわりを整理するようにした	12.7	16.0	11.0	21.3
8 石油ストーブは、耐震自動消化装置付きのものを使用しようと考えている	13.3	14.7	15.3	16.3
9 風呂にいつも水を入れるようにした	12.3	20.3	22.7	27.7
10 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	6.3	11.3	10.3	13.7
11 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	0.3	4.3	4.7	1.0
12 ガラス飛散防止をした	0.3	2.0	2.3	3.0
13 ガスボンベを倒れないようにした	3.0	2.7	4.0	1.7
14 家具が倒れないように固定した	11.7	10.3	11.7	12.7
15 ブロック塀の点検や転倒防止を施した	4.7	—	—	—
16 防災訓練に積極的に参加しようと考えている	7.3	—	—	—
17 非常持出品を用意した	21.3	45.0	53.0	68.0
18 その他	3.7	—	—	—
19 何もしていない	40.0	—	—	—

注) 「地域防災に関する都市住民アンケート調査」は「地震前」の設問がなく、「地震後の現況」と「地震をきっかけに」となっているため、比較の便宜上、{「地震前の現況」－「地震をきっかけに」}の値を「地震前」の結果としている。

- 問20 「非常持出品を用意している」と答えた方に
お宅では、非常持出品として、何を用意していますか。今回の地震前と地震後に分けて、次の中から用意してあったもの、用意したものをいくつでもお選びください。
(地震前)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
1 毛布又は寝袋	(53)	(135)	(159)	(204)
2 下着類	1.9	15.9	36.9	17.9
3 ちり紙、タオル、せっけんなど	9.4	44.9	49.5	51.4
4 救急医療品	20.8	51.1	59.1	43.1
5 手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾	35.8	49.4	57.1	47.2
6 預金通帳、印鑑	18.9	42.0	53.5	29.8
7 現金	45.3	46.6	53.0	78.9
8 ナイフ、缶切り、ロープ、ひもなど	30.2	44.9	42.4	65.1
9 ローソク、マッチ、懐中電灯	13.2	30.7	29.8	19.7
10 携帯ラジオ（軽くて電池で使用するもの）	64.2	78.4	81.3	81.7
11 乾パン、ミルク、缶詰などの食料品	52.8	60.8	61.1	64.7
12 飲料水	28.3	57.4	67.2	48.6
13 カセットコンロ	34.0	66.5	65.2	59.6
14 キャンプ用テント	7.5	19.9	30.3	18.8
15 その他	0.0	4.0	13.1	5.0
	3.8	—	—	—

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
(地震をきっかけに)	(64)	(135)	(159)	(204)
1 毛布又は寝袋	10.9	9.6	21.4	15.2
2 下着類	35.9	31.9	27.0	41.7
3 ちり紙、タオル、せっけんなど	40.6	26.7	25.8	31.4
4 救急医療品	45.3	23.7	17.6	32.8
5 手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾	17.2	17.8	13.2	24.0
6 預金通帳、印鑑	60.9	29.6	30.2	60.3
7 現金	42.2	29.6	23.9	50.5
8 ナイフ、缶切り、ロープ、ひもなど	17.2	6.7	14.5	12.3
9 ローソク、マッチ、懐中電灯	64.1	31.1	26.4	56.4
10 携帯ラジオ（軽くて電池で使用するもの）	48.4	28.1	25.2	44.6
11 乾パン、ミルク、缶詰などの食料品	23.4	23.0	27.7	37.7
12 飲料水	39.1	42.2	39.0	53.4
13 カセットコンロ	12.5	9.6	15.1	14.7
14 キャンプ用テント	6.3	0.7	5.0	4.4
15 その他	6.3	—	—	—
(無回答)	1.6	0.0	0.0	0.0

注) 「地域防災に関する都市住民アンケート調査」は「地震前」の設問がなく、「地震後の現況」と「地震をきっかけに」となっているため、比較の便宜上、{「地震前の現況」—「地震をきっかけに」}の値を「地震前」の結果としている。

問21 あなたの住んでいる地域は、地震による災害に対し、安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。次の中からあてはまるものを1つお答え下さい。

(地震前)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
1 安全と思っていた	(300)	(300)	(300)	(300)
2 どちらかといえば安全と思っていた	28.3	8.7	4.7	23.7
3 どちらかといえば危険と思っていた	34.7	19.0	25.0	21.0
4 危険と思っていた	10.3	37.3	30.7	17.3
5 特に意識していなかった	3.7	14.0	18.7	5.0
	23.0	21.0	21.0	33.0

(地震後)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
1 安全	(300)	(300)	(300)	(300)
2 どちらかといえば安全	4.7	2.0	1.3	1.0
3 どちらかといえば危険	46.7	20.7	28.0	22.3
4 危険	29.3	40.7	28.7	40.0
5 特に意識していない	7.7	28.7	32.0	26.7
	11.7	8.0	10.0	10.0

問22 地震後に「どちらかといえば危険」「危険」と答えた方に
この地域はどのような点が危険だと思いますか。次の中から特に危険だと感じていることを3つまでお答え下さい。
(3つまで)

	芸予地震	兵庫県南部地震		
		東京	静岡	大阪
1 木造住宅が密集していること	(111)	(208)	(182)	(200)
2 ブロック塀が多いこと	33.3	43.8	33.5	64.5
3 道路が狭く、複雑に入り組んでいること	27.0	11.5	13.7	5.5
4 道路際に通行の障害となるものが多いこと	29.7	25.5	24.7	45.0
5 窓ガラスや看板などの落下の危険があること	4.5	9.1	4.4	9.0
6 近くに危険物を扱っている工場があること	10.8	24.5	19.2	12.5
7 地盤が弱いこと（液状化が起こる可能性が高い）	0.9	5.8	9.3	7.0
8 河川の氾濫や高潮・津波の危険性があること	32.4	28.8	27.5	21.0
9 火災の時に、延焼を防ぐのに役立つ緑や広場が少ないこと	15.3	8.2	35.2	6.0
10 近くに消火用水として使用できる川やプールなどがいないこと	15.3	28.4	22.0	33.0
11 高層ビル、高層マンションが多いこと	8.1	14.4	11.5	11.0
12 人や車が多いこと	5.4	20.2	7.7	22.5
13 近くに高速道路や鉄道の高架があること	5.4	22.1	12.6	11.5
14 その他	2.7	4.8	4.4	9.0
(無回答)	17.1	4.8	4.9	5.5
	0.9	0.0	0.0	0.0

問23 今回の「芸予地震」や6年前の「兵庫県南部地震」のような災害が発生すると、救援・医療活動や復旧活動、物資の搬送や情報伝達といった様々な活動が必要になってきます。あなたは、ご自身が住んでいる地域以外で災害が発生したとき、このような活動にボランティアとして参加したいと思いますか。

		芸予地震	兵庫県南部地震		
			東京	静岡	大阪
1	積極的に参加する	(300)	(300)	(300)	(300)
2	自分の親類縁者や知人が住んでいる地域の災害なら参加する	10.0	23.0	21.3	16.3
3	行政機関や自治会などから要請があれば参加する	13.0		14.0	16.3
4	参加しない	21.7	13.0	19.0	18.3
5	一概に言えない	7.7	6.0	2.7	10.0
6	わからない	25.0	31.0	32.0	30.0
	(無回答)	22.3	12.3	8.0	11.0
		0.3	0.0	0.0	0.0

問24 ところで、今回の地震における、行政の災害への対応（水の補給、屋根シート提供、食糧補給、救済制度の運用など）スピードはどうでしたか。次の中からあてはまるものを1つお答え下さい。

1	早かった	(300)
2	まあまあ早かった	9.7
3	ふつうだった	19.7
4	やや遅かった	14.3
5	遅かった	3.3
6	わからない	5.3
		47.7

問25 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取組んでもらいたいものを3つまでお答えください。（3つまで）

		芸予地震	兵庫県南部地震		
			東京	静岡	大阪
1	避難場所や避難道路などを整備する	(300)	(300)	(300)	(300)
2	災害に強いまちづくりのための再開発を進める	37.7	33.7	33.7	44.7
3	高齢者、心身障害者、災害に弱い人に対する施策を充実させる	21.3	19.0	12.0	20.0
4	地下街、高層ビルに対する防災指導を強化する	38.0	26.3	34.0	34.7
5	防災パンフレットや新聞・テレビなどを通じて住民の防災意識を高める	5.7	9.7	3.0	5.7
6	災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる	19.3	7.3	13.0	11.0
7	消火活動体制を充実させる	48.3	47.7	49.3	40.0
8	三角バケツや消火器の配布、消火訓練など、住民の初期消火体制を充実させる	3.0	27.7	24.7	34.0
9	応急医療体制を充実させる	6.7	4.7	4.3	5.3
10	食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分に行う	23.7	44.3	46.3	37.3
11	屋外広告物や窓ガラスなどの落下を防ぐよう、安全性の点検や指導を強化する	30.3	52.7	58.7	47.3
12	その他	21.7	14.7	12.0	11.3
	(無回答)	1.7	2.0	1.0	1.7
		1.0	0.0	0.0	0.0

問26 今回の地震にあわれて、家庭や地域の地震対策で、どんな事が大切と感じましたか（「IV 自由回答」参照）

問27 今回の地震について、何か前兆のようなものを経験されましたか。あれば具体的にお答えください。
 （「IV 自由回答」参照）

V 自由回答

問26 家庭や地域の地震対策で大切なこと（自由回答）

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
転勤等出入りの多いマンションの借家における避難場所などの確認、地区単位などでの防災活動が必要	男性	25～29歳	東区戸坂山崎町	7戸・ト・借家	R C造
自宅でも充分防災対策をしないといけないと思いました	女性	20～24歳	東区戸坂山崎町	7戸・ト・借家	不明
大事なものは常にひとかたまりにして水とか必要な物を準備しておかないと行けないと思った。	女性	40～44歳	東区戸坂山崎町	借家（一戸建）	木造
火が出たら困るので行政より気をつけるよう皆に呼びかけてほしい	女性	50～54歳	東区戸坂山崎町	持家	木造
連絡が取れないのが不安なので通信	女性	60～64歳	東区戸坂山崎町	持家	木造
家具などの転倒防止	男性	35～39歳	東区馬木	7戸・ト・借家	他非木造
地震に対して家具の倒れ防止対策と、物の落下防止が必要と感じた	男性	50～54歳	東区馬木	持家	木造
防災意識を持つ	女性	45～49歳	東区馬木	持家	木造
・事故があったが110番してもつながらない。110番ぐらい別回線ですつながるようにならないといけないと思う。・地震の時家にいた方がいいのか何をしたらいいのかわからない。	女性	50～54歳	東区馬木	持家	木造
防災グッズの用意をしておかないといけないと思った	女性	35～39歳	東区馬木	持家	木造
ブロック塀や家が壊れて人を傷付けたらいけないので賠償保険には入らないといけないと思っている	女性	65～69歳	東区馬木	持家	木造
とっさ的に安全な場所が家の中から外かを考えて行動することだと思った。家が壊れそうなのにいつまでも中にいても危ないので地震の大きさによっては外の方が安全なこともある。何年何十年に一度の大きな地震などは対策にも限度がある	男性	30～34歳	廿日市市阿品	7戸・ト・借家	木造
これから子供が大きくなって家族の所在確認がキッチンとできるよう皆で話し合っていかなければと思った。	男性	35～39歳	廿日市市阿品	持家	木造
家族や地域で避難場所を決めておくことが大切だと思った	男性	60～64歳	廿日市市阿品	借家（一戸建）	不明
家の中の落下物が多かったのでそれらを地震が起こる前に対策をしておかないといけないと思いました。地震が起こった時、特に何をしたいのか思いつかなかったので災害時にとるべき行動について知識を持っておかなければならないと思いました	女性	20～24歳	廿日市市阿品	持家	他非木造
家具を固定するとかあわてて外に飛び出さない等、火の元を確認するとか日頃から基本的な知識を身につけておくことが大切。今回は近所でお葬式があり自宅にはいなかったの、行動が家にいるのと多少違いがあると思います。	女性	45～49歳	廿日市市阿品	持家	木造
揺れている間は屋外にでないこと	女性	65～69歳	廿日市市阿品	持家	木造
・家族との連絡方法・地域の災害状況・家庭では非常用物資の準備	男性	30～34歳	安佐北区亀山南	持家	木造
家具の転倒防止、連絡方法を定めることが必要	男性	50～54歳	安佐北区亀山南	持家	非木造不明
家具の倒壊、棚等よりの落下防止策	男性	60～64歳	安佐北区亀山南	持家	木造
日頃の近所付き合いをしっかりとしておくこと	女性	35～39歳	安佐北区亀山南	持家	他非木造
行政は最初から当てにしているわけではない。	男性	25～29歳	佐伯区藤垂園	持家	木造
家族で避難場所を決めておくことが大切と思った	男性	30～34歳	佐伯区藤垂園	7戸・ト・借家	不明
災害情報を早くTV・ラジオで聞く	男性	40～44歳	佐伯区藤垂園	社宅など	木造
車に乗っていて実際に実感がなかった	男性	50～54歳	佐伯区藤垂園	持家	木造
避難場所が遠く公民館は狭い。雨天の場合に備えてテント・通信器など公民館等へ備蓄しておいてほしい	男性	65～69歳	佐伯区藤垂園	持家	木造
もし何かあった時のために自分達の避難する場所の確認をちゃんとしておかなければいけないと思った。・非常袋なども必要・大きな家具など転倒しないようにとめておくことも必要だと思いました。避難ルートの確認・いざというときに備える非常持ち出し品の準備・家族との連絡確認	女性	25～29歳	佐伯区藤垂園	7戸・ト・借家	不明
外に飛び出さない	女性	40～44歳	佐伯区藤垂園	持家	木造
私の住んでいるところは特に大きな被害もなかったの余り感じたこともなかった	女性	30～34歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造
電話・携帯電話が全く役に立たない、と実感した。	女性	30～34歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造
この地区では大きな被害はないと思っていましたが、小さい子供がいるので家具の固定や連絡方法など決めたいと思いました。	女性	40～44歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造
近隣等の情報	女性	65～69歳	佐伯区薬師が丘	持家	R C造
家の中で安全な場所が何処か知っておく	男性	30～34歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造
別に被害もなく何も感じない	男性	45～49歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
・連絡がいつも取れず（電話はもちろん）・普段何も起こってないときは便利な携帯だが困ったときには全く用をなさない。便利のものとわかった。・こんな事が身近に起こるなんて全く思っていなかったのでパニックになった。落ち着くこと。・緊急持ち出しを考えること・ガスをきる、日頃から頭に入れておかなければ	女性	50～54歳	佐伯区薬師が丘	持家	木造
家庭のできる事前対策（項目・手順・役割）	男性	50～54歳	佐伯区薬師が丘	持家	他非木造
相互援助対策	男性	20～24歳	安佐北区倉掛	持家	SRC造
情報は早く正確に！	男性	30～34歳	安佐北区倉掛	持家	RC造
今回の地震の被害がほとんどなかったのだからこれといって思い当たらないが、ひとり暮らしの母が気になるので、電話回線を地震の時はより多くしてほしい	男性	45～49歳	安佐北区倉掛	持家	木造
防災意識を高める	男性	55～59歳	安佐北区倉掛	持家	木造
地震に対応する心構えが欠けていたので一刻も早く対応できるよう、常に考えておくことが必要だと思う	男性	65～69歳	安佐北区倉掛	持家	木造
慌てないこと	女性	30～34歳	安佐北区倉掛	持家	木造
連絡を取りたいのに電話（携帯）もふくめ通じないのがとても不便です。何とかならないもののでしょうか。	女性	45～49歳	安佐北区倉掛	持家	0
ライフラインの確保	女性	65～69歳	安佐北区倉掛	持家	他非木造
伝達方法を早くする	男性	25～29歳	宮島町	持家	木造
日頃からの安全点検・家族連絡方法等	男性	35～39歳	宮島町	持家	木造
情報伝達の迅速化	男性	60～64歳	宮島町	持家	木造
物を少なくする。タンスなどは倒れてこないよう手を加える。（床とタンスの間にかませる。後から引っ張りヒモをつける）・電話回線の確保（安否の確認・連絡がとれない）・非常時持ち出し品を用意しておく（備えあれば…）・JRの対策（あまり時間もかかり過ぎている気がする）・避難生活の援助	女性	25～29歳	宮島町	持家	木造
室内外の点検（壊れやすい物等上に置かないこと）	女性	40～44歳	宮島町	持家	木造
落ち着いて行動すること	女性	50～54歳	宮島町	持家	木造
あまり感じなかった	男性	25～29歳	呉市広古新開	7戸・ト・借家	他非木造
被害がなかったので余り感じなかった	男性	50～54歳	呉市広古新開	持家	木造
断水等素早い対応	男性	50～54歳	呉市広古新開	持家	木造
家が古いのでできるだけ早く外へ出るようにする	男性	65～69歳	呉市広古新開	持家	木造
あまり被害がなかったので特に思わなかった	女性	25～29歳	呉市広古新開	7戸・ト・借家	RC造
身近にあまり被害を受けた人がいないし自宅でも何もなかったから特に思わない。	女性	35～39歳	呉市広古新開	分譲マンション	SRC造
飲料水を常に用意しておく。	女性	45～49歳	呉市広古新開	持家	木造
必要品がいつでもすぐ手にすることができるところへ用意する	女性	65～69歳	呉市広古新開	持家	木造
阪神大震災の直後は防災に対する意識が高まっていたが今回はその意識が薄くなった頃だったので常に日頃から防災意識を持っておくことが大事だと思う	男性	30～34歳	呉市宮原	持家	木造
人が通るところのブロックや石積みとかは落下しないようにしないといけない	男性	20～24歳	呉市宮原	借家（一戸建）	木造
今までも何かの時に話し合っていたので慌てないこと	男性	60～64歳	呉市宮原	借家（一戸建）	木造
被害がなかったので特に思わなかった	女性	25～29歳	呉市宮原	7戸・ト・借家	RC造
あまり感じなかった	女性	30～34歳	呉市宮原	持家	非木造不明
被害を最小限に防ぐために家の中の飾り物・置物は高い場所へ積み重ねないようにしなくてはならないと思った	女性	50～54歳	呉市宮原	持家	木造
1 慌てないこと 2 火の注意	女性	65～69歳	呉市宮原	持家	木造
防災対策が大切と思う	男性	65～69歳	呉市仁方本町	持家	木造
自分には関係ないことだと思っていたが、いつ自分や家族が被災者になるかわからない。他人事ではないと思った。家族が離れ離れになり連絡がつかない時の集合場所を決めたり災害後はどうしたらいいかを話し合っておかないといけないと思いました。	女性	35～39歳	呉市仁方本町	借家（一戸建）	木造
断水になったので素早い対応をしてほしいこと	女性	40～44歳	呉市仁方本町	持家	木造
電話等の連絡網の確立・住宅の過度の密集を避ける町作り・神社や墓地等の巨大な石作りの建築物の補強・防災放送の確立（仁方町では町内放送がなく、給水車等が道路を走行しながら放送していたが聞こえなかった）	男性	25～29歳	呉市仁方本町	7戸・ト・借家	木造

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
家族で防災対策についての話し合いが必要と思いました	男性	45～49歳	呉市仁方本町	持家	木造
行政の対応を早くしてもらうこと	男性	50～54歳	呉市仁方本町	持家	木造
いざの時に避難場所を決めておく	女性	65～69歳	呉市仁方本町	持家	木造
別に被害がなかったのに特に思わない	男性	35～39歳	呉市仁方本町	持家	RC造
あまり思わない	女性	30～34歳	呉市仁方本町	7戸・ト・借家	不明
子供の心のケアをしてほしい	女性	50～54歳	呉市仁方本町	持家	木造
電話が使えなくなるのが最悪だと思う	男性	20～24歳	中区吉島西	持家	木造
特別な被害がなかったので良く分からないが家庭内での最低の備えは大切だと思う	男性	30～34歳	中区吉島西	7戸・ト・借家	不明
地震が起きたときどの要に行動するかの心構えが大切だと思った。阪神大震災時を強烈におぼえていたので子供を抱いてまずドアを開け通路を確保したり、ガラスで怪我をしないようクツを履いて外に出たり頭上が安全な場所へ移動したことは後で考えると自分でもよくできたと思うがガスの元栓を締める、風呂に水を張るまで思いつかなかった。今回は横揺れだったので少し時間に余裕があったがこれが縦揺れだったらと思うと地震がないと思った。	女性	30～34歳	中区吉島西	持家	木造
地震があったらどうするか、常に話しあっていることが必要、家でも地域でも。	男性	40～44歳	中区吉島西	持家	木造
今回の地震は自宅の揺れが激しかった割には被害がほとんどなかったの で時間の経過と共に少づつ不安な気持ちが減少し、翌日には平常生活に 戻りました。しかしこのアンケートをきっかけに地震対策はほとんどさ れていないことを再確認し、家族でもっと話し合う機会を持ちました	女性	40～44歳	中区吉島西	7戸・ト・借家	不明
避難場所や避難道路等整備が必要。台風や地震時に屋外の広告物や窓ガ ラスが飛んでこないように何か良い指導がほしい	男性	65～69歳	中区吉島西	持家	木造
非常持ち出し袋を用意しておくこと。災害に遭ったときの避難場所を決 めておくこと。家の家具などを倒れないようにしておくこと。物が落ち ないようにしておくこと	男性	20～24歳	中区白島中町	社宅など	SRC造
防災訓練に積極的に出て勉強すること	女性	25～29歳	中区白島中町	持家	木造
持ち出し物の点検。転倒（家具etc）防止対策	男性	35～39歳	中区白島中町	社宅など	SRC造
地域のコミュニティが 薄らいでおり、何処に誰がどう言う状態で生 活している等の情報がなかなか入りにくい。普段から交流を持たないと いざという時にも声をかけて良いものやらという思いが少々虚しい。人 と人とがやはりつながりを強化していく努力が大切だと思います。	女性	35～39歳	中区白島中町	持家	SRC造
火の元に気をつけて避難場所を確認しておくこと	女性	45～49歳	中区白島中町	社宅など	SRC造
家族が外出中に災害が発生した場合家族の集合場所を決めておく	男性	50～54歳	中区白島中町	持家	木造
タンスや食器棚の上に物を置かない。	女性	50～54歳	中区白島中町	持家	RC造
非常持ち出し品を用意しなくてはと実感したけれど実行していない	男性	70歳以上	中区白島中町	持家	木造
日頃よりの心構えが必要だと思つづく思っています。TVでそろそろ安 芸灘地震が聞きながら何も対策をしてなくて人事のようにかんがえてま した。反省材料です。	女性	60～64歳	中区白島中町	持家	木造
・タンスは固定が必要・竹原の震度計は 直すべき。TVで竹原の震度 だけでなく不安でした。	女性	25～29歳	竹原市本町	社宅など	RC造
竹原市震度計がないのは住民として非常に不満・市長が被災地を巡回し たが何の声かけもなかったのは残念に思った。	男性	40～44歳	竹原市本町	借家（一戸 建）	木造
地域で避難場所の確保をしたい	男性	50～54歳	竹原市本町	持家	木造
地域では白紙の状態なので防災訓練などをやってほしい	男性	70歳以上	竹原市本町	持家	木造
竹原市の震度が速報されないので大変不安に思いました	女性	55～59歳	竹原市本町	持家	木造
家の入口を開けて逃げ道を作るようにしている	女性	45～49歳	竹原市本町	持家	木造
非常持ち出し品の準備や避難場所の確認が必要	男性	25～29歳	河内町中河内	持家	木造
携帯が使用できず自分が自宅以外（外出）していたら自分や家族や友人 への連絡手段がないので対応を考えるべき（国のレベルで）	男性	35～39歳	河内町中河内	持家	木造
・広島県でも震度6規模の地震が起こることを覚悟しておくこと・各家 庭で若干の非常用品を備えておくこと・各地区毎に発生直後に共同して 被害確認と応急対応がとれる準備をしておくこと。	男性	45～49歳	河内町中河内	持家	木造
家族との連絡のとりかた。3日分の食糧、飲み物の確保。家具が倒れな いように固定すること	女性	40～44歳	河内町中河内	持家	不明

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
いざという時に避難する公共施設がほとんど被害を受けている。安全な避難場所を確保してほしい	女性	50～54歳	河内町中河内	持家	木造
自宅及び周囲に屋根の瓦の滑落及びこれに伴う下部屋根の損壊が被害の主なものといえる。耐震上の配慮（工法上）されていなかったように認められるので修理の際に考慮したい。	女性	60～64歳	河内町中河内	持家	木造
家族との連絡をとる手段として携帯電話が使えなくなるのは不満。	男性	25～29歳	尾道市西御所町	持家	木造
被害が少ないので特に考えていない	男性	30～34歳	尾道市西御所町	持家	SRC造
避難場所の整備が必要だと思った	男性	40～44歳	尾道市西御所町	持家	木造
高い場所に物を積み上げないように。不要になったものは思い切って処分する	女性	40～44歳	尾道市西御所町	持家	SRC造
家のメンテナンスを常時心掛ける	女性	55～59歳	尾道市西御所町	持家	SRC造
避難場所の確認	男性	70歳以上	尾道市西御所町	持家	木造
避難場所をしっかりと知っておくこと	男性	25～29歳	三原市城町	7パート・借家	木造
高い所に物を置かない	男性	35～39歳	三原市城町	持家	SRC造
・自分の中で大きな地震はないという安心感を捨てるのが大切だと思った・地震が起きた時市民・県民はどうしたらいいのか、自分自身の住んでいる周りはどうなっているのか全くわからなかった。もっと行政にその情報をできるだけ早く知らせただけなら安心かと思う（テレビ・ラジオからしか情報が全く入らなかった）	女性	35～39歳	三原市城町	分譲マンション	SRC造
住民声の掛け合いや助け合い	女性	40～44歳	三原市城町	持家	非木造不明
近所のマンションから煙りが出ているのに気付き119番に連絡。近所との連絡または様子伺いをすることで留守宅の様子等知ることが必要だと思う。	女性	50～54歳	三原市城町	持家	SRC造
天災は他人毎の様に考え、自分は何の対策もしていなかったという意識の低さやすべて行政まかせ、他人まかせの考え方が良くないと反省した。	女性	60～64歳	三原市城町	持家	SRC造
・各家庭で被害を最小の努力が必要・地域の状況が全く入らなかった	男性	55～59歳	南区宇品御幸	持家	木造
平素より心の気構えは勿論、食料・日用品・水などの準備、蓄えなど用意しておくこと	男性	70歳以上	南区宇品御幸	持家	木造
家の中にいた場合の避難場所（方法）について再確認しました	女性	35～39歳	南区宇品御幸	7パート・借家	RC造
落ちついて慌てずに行動する（まず火元から）	女性	55～59歳	南区宇品御幸	持家	木造
室内で高い所に物を置かない	女性	30～34歳	南区丹那町	社宅など	不明
電話（自宅・携帯共に）がテープが流れるのみで家族、親戚の無事がわからずイライラした（メールも送信できなかった）。春休み中の午後で子供もいたから良かったが規模が大きかったり離れた場所にいたらパニックを起こしていたであろう。携帯のiモードではなく自宅のパソコンから夫の（職場の）パソコンにメールを送ることは考えがつかなかった。無事の確認を電話に頼らず限られた手段ですることが必要。落ち合う時もAが駄目ならBなどあらゆる状況を想定すべきと痛感	女性	40～44歳	南区丹那町	社宅など	RC造
造成団地中止でそのままになって2年位と思いますが地域の人がもう少し積極的に対処しなければと感じています。	女性	65～69歳	南区丹那町	持家	他非木造
避難場所を確認すること	男性	40～44歳	南区丹那町	持家	木造
何処にでも日本中いえることだが、個人の防災意識レベルをあげることが1番の対策では？	男性	20～24歳	安芸区中野	持家	木造
地域の消化訓練などに積極的に参加する	女性	20～24歳	安芸区中野	持家	木造
家の中のタンス等固定しておかないといけないと思った	男性	30～34歳	安芸区中野	分譲マンション	RC造
どうしようもないと思う	女性	30～34歳	安芸区中野	借家（一戸建）	木造
高い所に物を積み上げない・家族との連絡方法を決める	女性	40～44歳	安芸区中野	持家	木造
情報は 早く伝える、今回はNHKテレビは早く伝えて良かったです	男性	55～59歳	安芸区中野	持家	木造
高い所に物を置かないこと	女性	55～59歳	安芸区中野	持家	木造
自然災害なので手のうちようがない	男性	60～64歳	安芸区中野	持家	木造
どうすればいいのかわからない	女性	60～64歳	安芸区中野	持家	木造
手のうちようがないと思う	男性	20～24歳	海田町西浜	借家（一戸建）	RC造
住民ひとりひとりが防災意識を高めておく必要があると感じた	女性	25～29歳	海田町西浜	持家	木造
・地震などへの備えの必要性・情報の入手・安芸地域の地震に対する長期予測を再度知らせる必要がある	男性	45～49歳	海田町西浜	持家	木造
地域の地震情報がなかったので町内だけの放送など考えてもらいたい。避難場所の情報が皆が分かりやすいようにしてもらいたい	女性	40～44歳	海田町西浜	持家	木造

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
グラッときたらすぐ戸を開け火元をよく見る	女性	45～49歳	海田町西浜	借家（一戸建）	木造
住民の防災意識の高揚を常日頃から努める	男性	60～64歳	海田町西浜	持家	R C造
防災対策を考え常に持ち出し品を常備しなくてはと思いました	女性	60～64歳	海田町西浜	持家	R C造
家の中と外はどちらが安全なのだろうか知ること	女性	20～24歳	熊野町貴船	持家	木造
避難場所・方法の決定 被害状況の速やかな連絡	男性	30～34歳	熊野町貴船	借家（一戸建）	木造
自宅も身の回りでも何も被害がなかったので特に感じていない	女性	30～34歳	熊野町貴船	公団など	不明
自分自身の周りには何も起こらなかったのに特に感じていない	男性	50～54歳	熊野町貴船	持家	木造
びっくりしただけ（あちこちで地震があったので何処で地震があっても不思議はないのだとは思っていた）	女性	45～49歳	熊野町貴船	持家	木造
地震対策を考える程でもないと思う	女性	55～59歳	熊野町貴船	公団など	R C造
過去の地震状況の情報と今後の予測	男性	70歳以上	熊野町貴船	持家	木造
自宅も近所も何もなかったのでも感じない	女性	65～69歳	熊野町貴船	持家	木造
火の始末	男性	20～24歳	西区南観音	持家	木造
避難場所の確認など	男性	30～34歳	西区南観音	7 ^パ ート・借家	R C造
電話が全くといっていいほど使えなかったので連絡ができなかった。通信網が遮断され今回のように他の地域に行き行動している場合情報が分かりにくいので何処にいても早く分かるような情報網の整備を急いでほしい	男性	60～64歳	西区南観音	持家	木造
早く連絡とれること・地域で集合場所が決まっていなかった	女性	25～29歳	西区南観音	7 ^パ ート・借家	木造
家族との連絡方法（出先で公衆電話を探すのに時間がかかった）・避難場所の確認・家族が離れ離れになった時の落ち合う場所を決めておく	女性	45～49歳	西区南観音	借家（一戸建）	木造
被害がなかったので余り身にしまっていない	女性	60～64歳	西区南観音	持家	木造
地震の時避難方法（机の下に隠れる、窓、戸を開けるなど）を子供ができなかったので避難訓練が必要だと思った	男性	40～44歳	西区三篠北町	持家	S R C造
電話等の救急時の連絡ができないので地域での防災体制	男性	50～54歳	西区井口鈴ヶ台	借家（一戸建）	木造
今回は土曜の昼間の地震だったので子供達も家にいたので安心だったがいつ地震が起こるかわからないので家族の安否を確認する方法を考えておくこと。また日頃から近所付き合いをしてお互いの情報交換ができる関係を作っておくことも必要だと思う	女性	35～39歳	西区井口鈴ヶ台	持家	木造
1、家庭内の耐震補強、建築物の耐震補強 2、防災教育、防災訓練を充分行うべきだ	女性	60～64歳	西区井口鈴ヶ台	持家	木造
ブロック塀、石垣は崩れやすさが目立った。人災にはいたることはなかったが、落下しやすい場所の設置については見直して頂きたい	男性	45～49歳	蒲刈町宮盛	持家	木造
行政は即シートなど無償の貸出しがあるのか連絡してほしい	男性	65～69歳	蒲刈町宮盛	持家	木造
一番大切なのは、水が大切なのが良くわかりました。役場からの放送で断水の放送があったので素早く対応出来てとてもありがたかったです	女性	35～39歳	蒲刈町宮盛	持家	R C造
あまり被害を受けていない	女性	65～69歳	蒲刈町宮盛	持家	木造
あまり被害がなかった	女性	70歳以上	蒲刈町宮盛	持家	木造
今まで特別な備えはしていなかったけど今回2日間の断水があっただけでも生活しづらく、少しでも非常時のことを意識して加速との連絡方法を決めたり、持ち出し品を準備しておくなど災害に対する意識が必要だと思った	女性	30～34歳	川尻町久筋	持家	木造
地震は忘れた頃にやってくるという言葉通りであった。日頃の備えがやっぱり大切だと感じた	女性	45～49歳	川尻町久筋	持家	木造
災害時の情報とか水の補給、屋根シート提供とかに対する対応が少し遅かったように感じました	女性	60～64歳	川尻町久筋	持家	木造
情報	男性	20～24歳	安佐南区沼田町伴	持家	木造
古い家の屋根などの防災対策	女性	20～24歳	安佐南区沼田町伴	7 ^パ ート・借家	不明
この地域は地震に対しては割と安全だと思っていたが、そうではないということがわかった。ブロック塀などの安全対策を考えないといけないと思う	女性	45～49歳	安佐南区沼田町伴	持家	木造
1、家族との連絡方法（電話が通じなかった）2、市内電車、J R、アストラムラインの運行状況の情報入手 3、地震の際、屋外に出て安全な場所に避難すべきか？屋内にいるべきかわからない	男性	55～59歳	安佐南区沼田町伴	持家	木造
地区毎で相当の差がある（被害状況に）のだから地区毎になるべく狭い範囲での被害の状況を把握し知らせてもらいたい	男性	70歳以上	安佐南区沼田町伴	持家	木造

意見（原文ママ）	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
・少なくとも自分が今住んでいる地域がどのような地盤なのか知っておくのが大切だと感じた ・食料・飲料水や毛布など非常用物資の備蓄を充分に行うことが大切だと改めて感じた。	女性	20～24歳	安佐南区上安	アパート・借家	非木造不明
家具をしっかり固定し、自ら防ぐことが大切だと感じました	男性	35～39歳	安佐南区上安	持家	木造
地震の大きさにもよるが、とにかくなるべく落ち着いていることが必要と思った。何よりも身の安全を最優先に考えた。もっと被害が大きい時は、体が無事なら近所の人と協力すればなんとかかなと思う	女性	50～54歳	安佐南区上安	持家	他非木造
地震後5日後に安佐南区の団地等を通りすぎりにみましたが、地盤の強いところと弱いところがハッキリしたと思います。団地造成には強力な指導が必要かも。	男性	60～64歳	安佐南区上安	持家	木造
すぐに連絡がとれる特殊な機械の開発	男性	25～29歳	安佐南区緑井	アパート・借家	他非木造
日頃からの備え	男性	35～39歳	安佐南区緑井	持家	木造
電話がすぐストップしました。家族への連絡が出来なかったため大変に心配しました。	男性	50～54歳	安佐南区緑井	持家	木造
地域に防災機器収納庫を備えて災害発生時に使用する機器（消火器、救助用機器、小型発電機（携帯用）等）を収納しておくとういと思う。	男性	65～69歳	安佐南区緑井	持家	木造

平成13年芸予地震に関する住民アンケート調査報告書

平成13年4月

株式会社 サーベイリサーチセンター
(本 社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10
T E L 03-3802-6711 (代)
F A X 03-3802-6730
(広島事務所) 〒730-0013 広島市中区八丁堀 1-12
T E L 082-227-7511 (代)
F A X 082-227-7558

本書の記載内容の無断転載を禁ず。
なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、
本社企画開発部もしくは広島事務所企画グループ宛にお申し出ください。